

**令和7年度
第5回 三重県河川整備計画
流域委員会**

**二級河川 安濃川・岩田川
(第1回流域委員会)**

令和8年2月5日





目次

- 1. 流域の概要**
- 2. 現在の計画**
- 3. 気候変動への対応方針**
- 4. 河川の現況**
- 5. 治水の現状と課題**
- 6. 利水の現状と課題**
- 7. 環境の現状と課題**
- 8. 今後の進め方**



目次

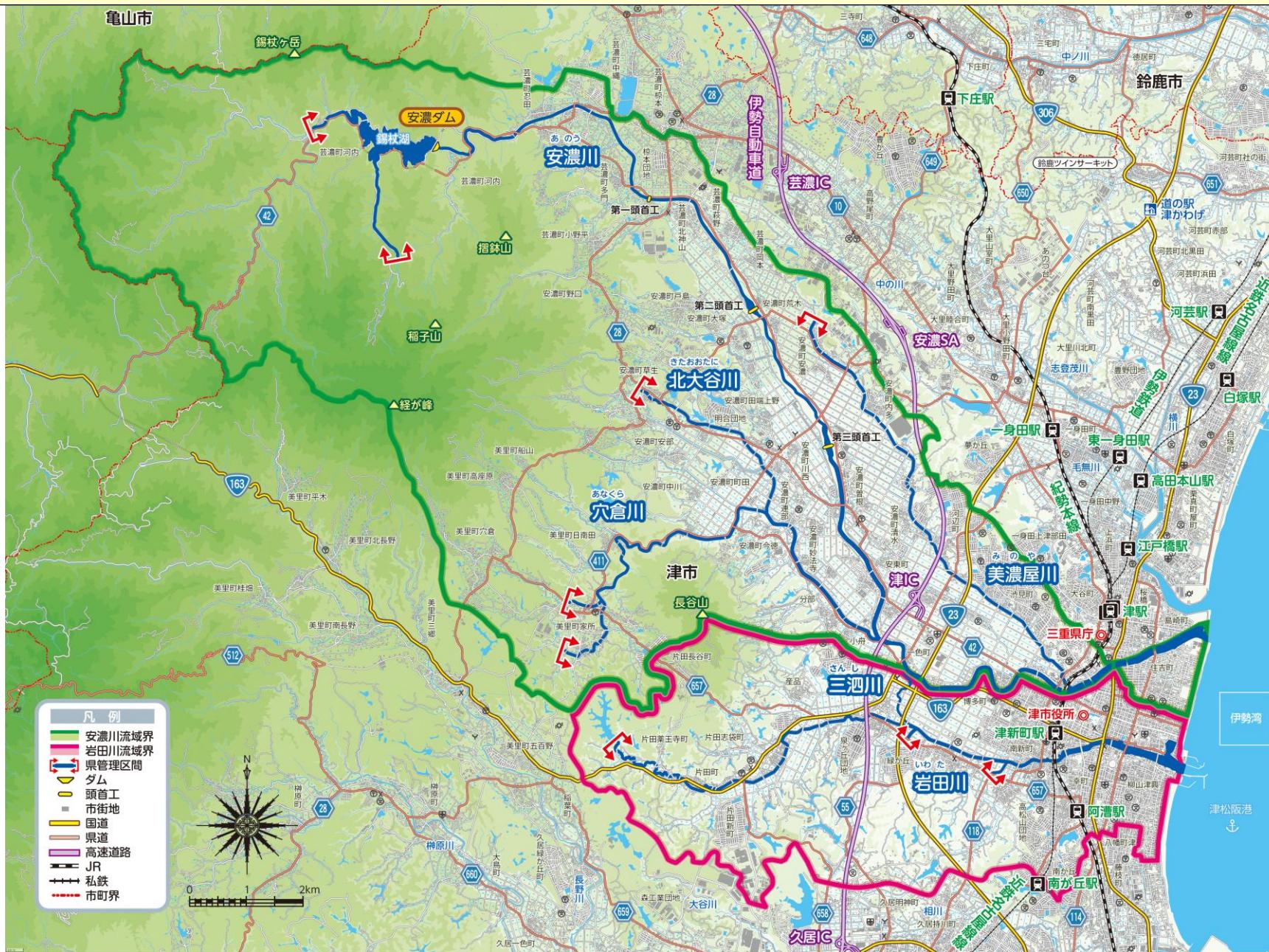
- 1. 流域の概要**
2. 現在の計画
3. 気候変動への対応方針
4. 河川の現況
5. 治水の現状と課題
6. 利水の現状と課題
7. 環境の現状と課題
8. 今後の進め方

■安濃川流域の概要

- 安濃川(あのがわ)は、津市を流域とする管理延長約23.9kmの二級河川。
- 河床勾配は1/80~1/2000であり、上流域に安濃ダム(利水ダム)による湛水域がある。

安濃川流域
 流域面積: 約110.7km²
 管理延長: 約23.9km

- 関係市: 津市
- 支川: 美濃屋川(みのやがわ)、穴倉川(あなくらがわ)、久保川(くぼがわ)、北大谷川(きたおおたにがわ)、笹子川(ささごがわ)



安濃川 桜橋下流
(感潮区間~下流区間)



安濃川 明合橋上流
(中流区間)



安濃川 瀬野橋下流
(上流区間)

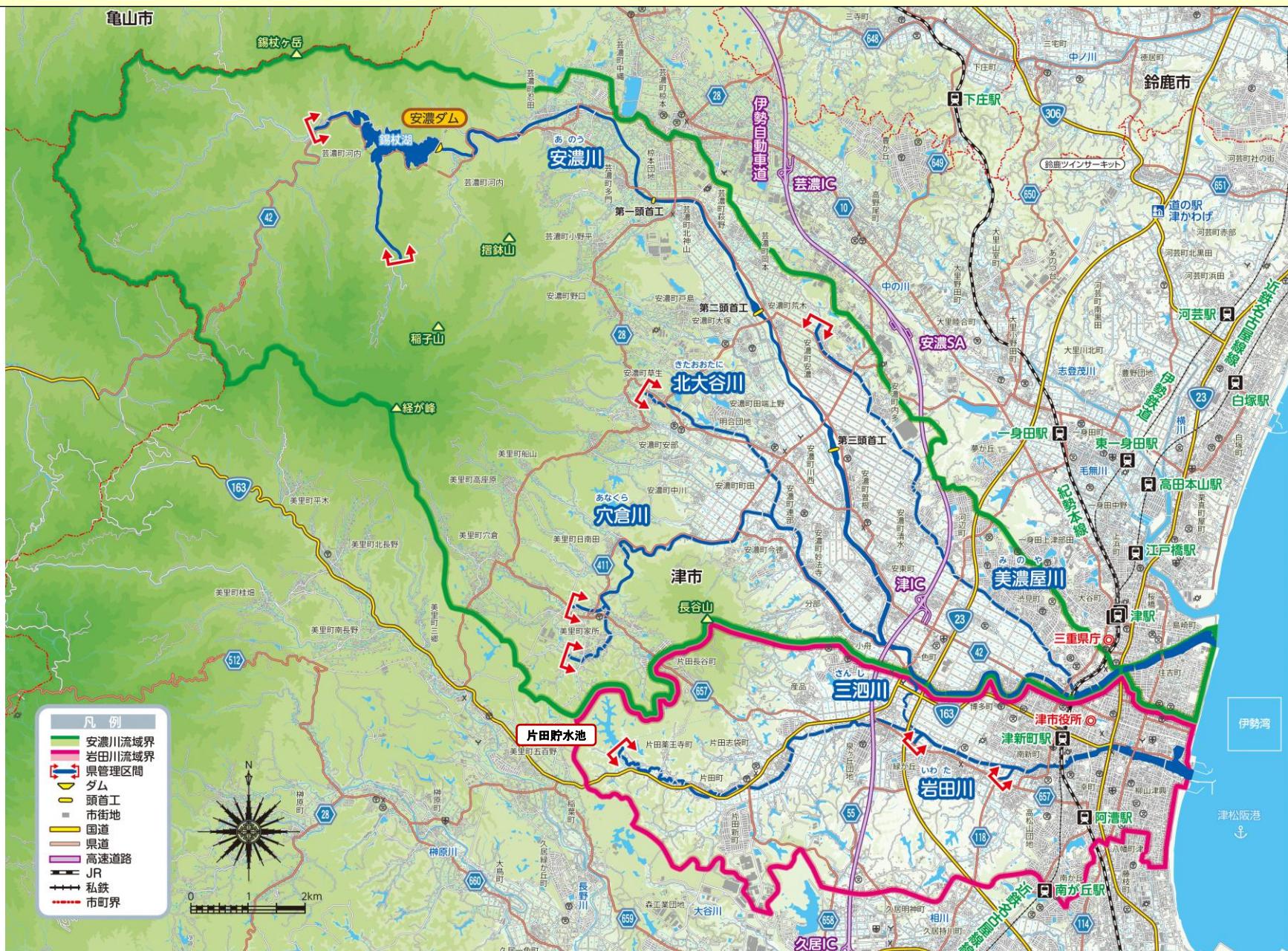


岩田川流域の概要

- 岩田川(いわたがわ)は、津市を流域とする、管理延長約11.7kmの二級河川である。
- 河床勾配は1/150~1/2000、全体的に緩流区間が長い。
- 支川三泗川(さんしがわ)は、安濃川から分派し、岩田川に合流する。

□関係市町:津市
 □支川:小川(おがわ)、おごえ川(おごえがわ)、三泗川(さんしがわ)

岩田川流域
 流域面積:約33.0km²
 管理延長:約11.7km



岩田川_岩田橋下流 (下流域)

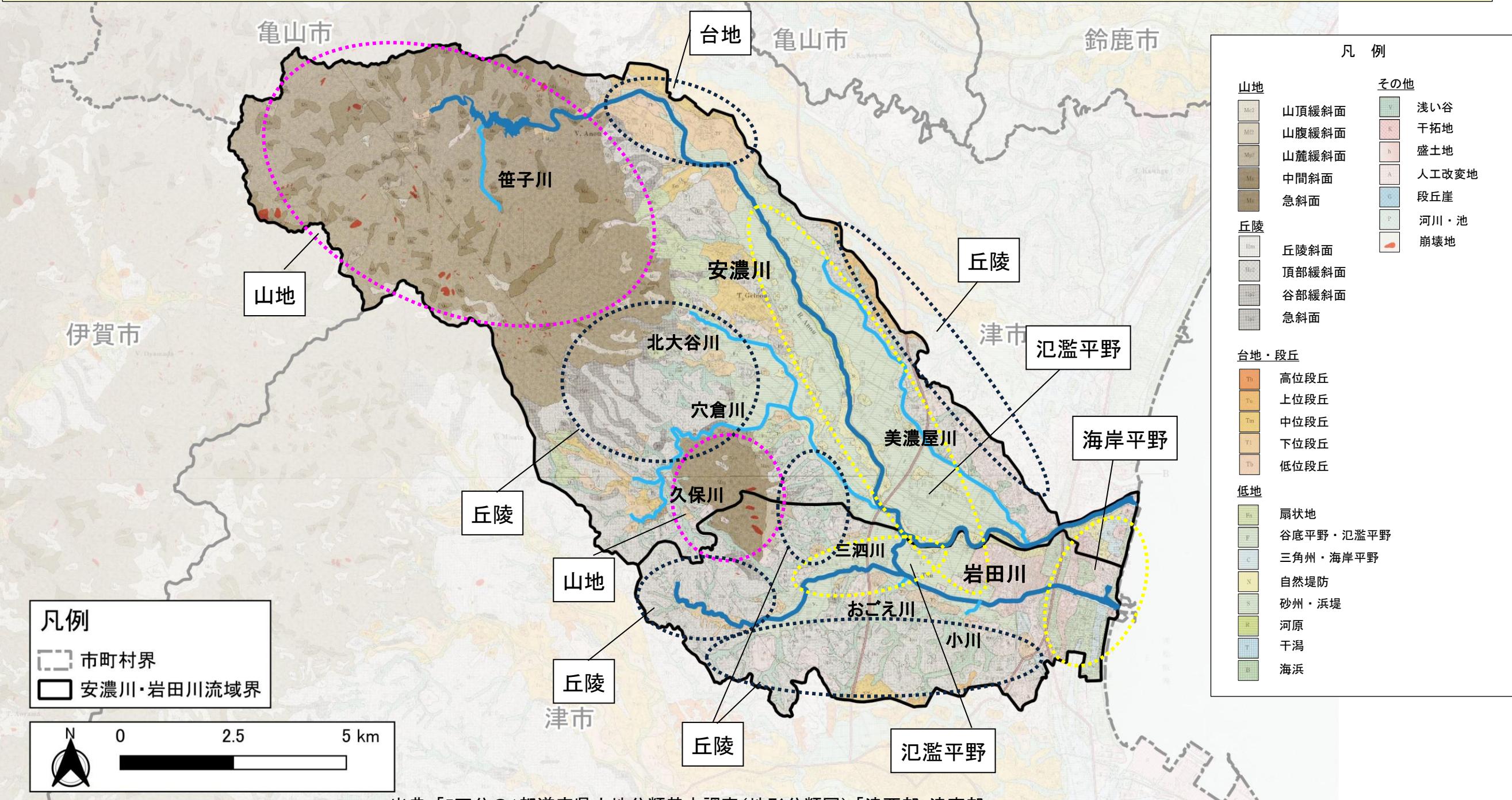


岩田川_田中頭首工下流 (中流域)



岩田川支川三泗川 (三泗橋下流)

- 安濃川の最上流域は標高700～800mの山地で、山麓部は台地、中流～下流域は氾濫平野が広く分布、北側に丘陵が分布する。最下流域は海岸平野となる。
- 岩田川の最上流域は標高100～150mの丘陵で、中流域は丘陵に挟まれた氾濫平野、下流域は安濃川低地と一体化した氾濫平野となり、最下流域は海岸平野となる。



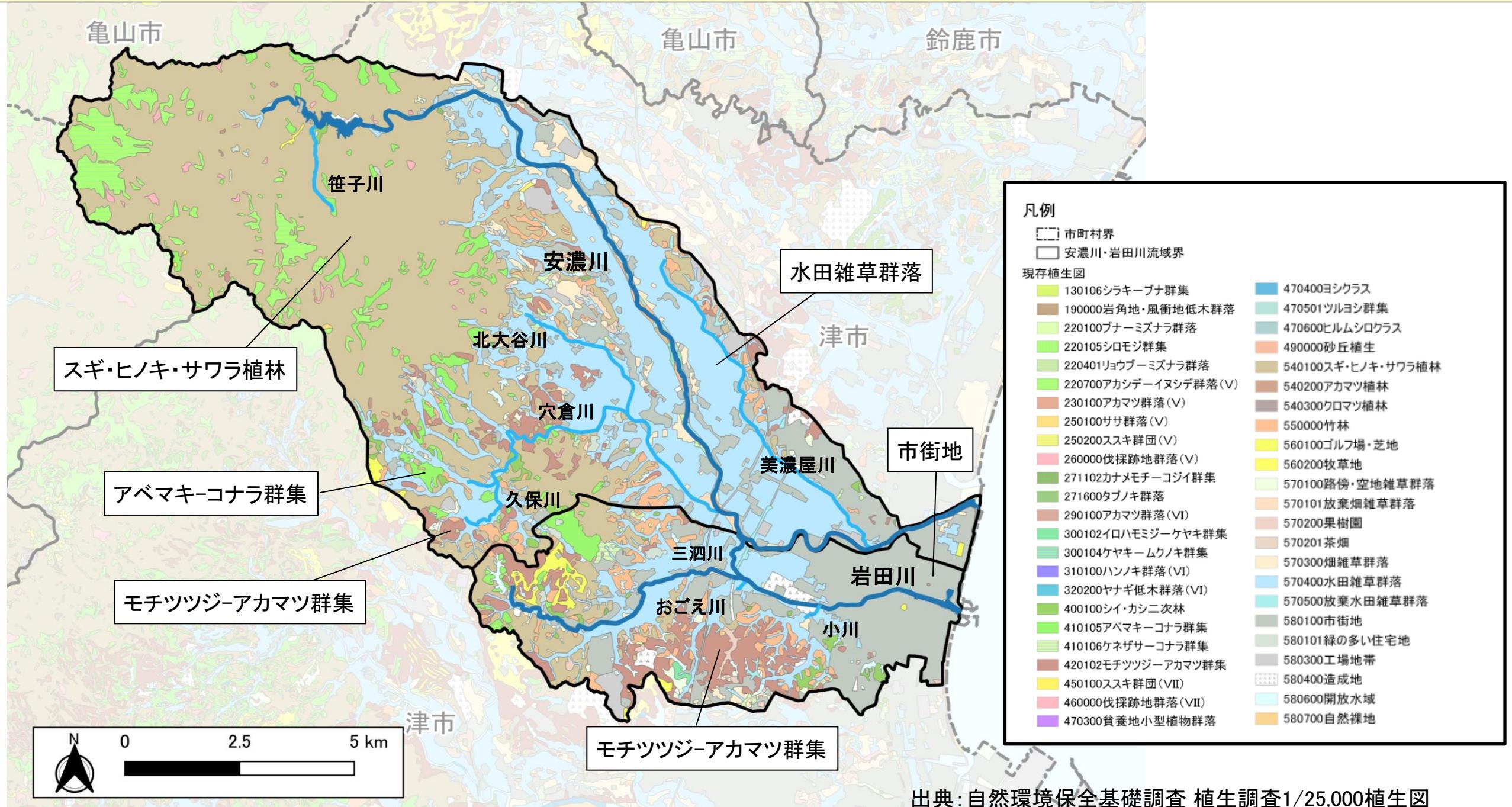
出典:「5万分の1都道府県土地分類基本調査(地形分類図)「津西部・津東部」

- 安濃川の最上流域の山地は主に花崗岩類・閃緑岩（せんりょくがん）類、丘陵・台地では砂岩・泥岩・凝灰質泥岩、砂・シルト・粘土互層、礫を主とする堆積物になる。中流～下流域の低地は礫・砂・泥を主とする堆積物が広く分布し、安濃川下流沿いの自然堤防には砂を主とする堆積物がみられる。
- 岩田川の最上流域は泥岩・砂岩、丘陵では砂・シルト・粘土互層が主体となり、最下流域の浜堤では砂を主とする堆積物がみられる。



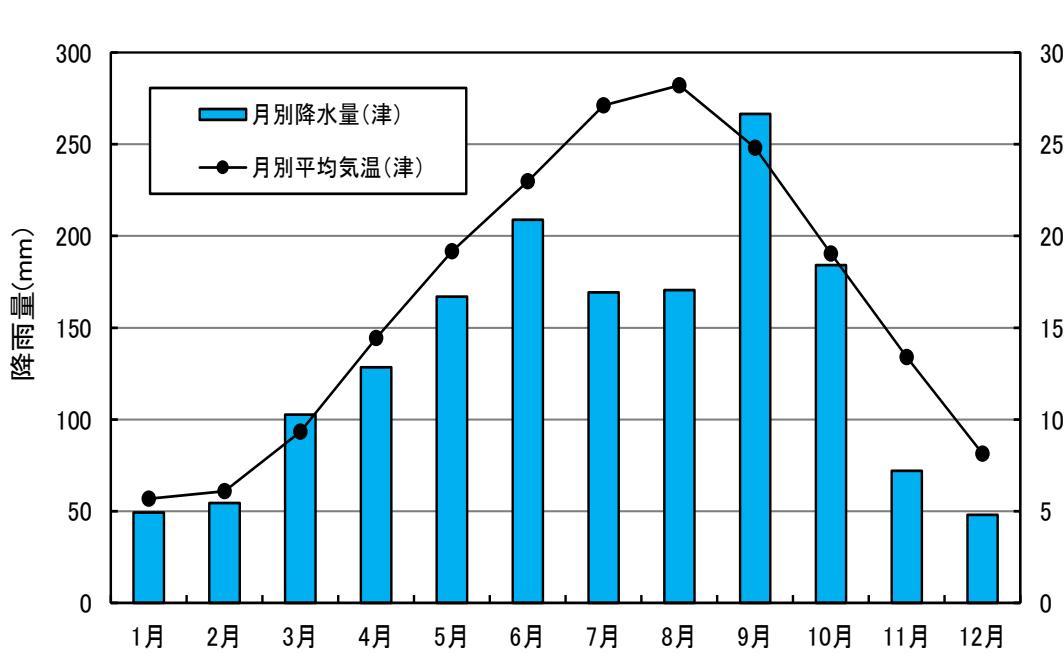
出典:「5万分の1都道府県土地分類基本調査(地形分類図)「津西部・津東部」

- 安濃川の上流域の山地はスギ・ヒノキ・サワラ植林が多くを占め、中流から下流域にかけての河川沿いは水田雑草群落広がる。丘陵はスギ・ヒノキ・サワラ植林が中心でアベマキ-コナラ群集やモチツツジ-アカマツ群集がパッチ状にみられる。最下流域は市街地となる。
- 岩田川の上流域から中流域の河川沿いは水田雑草群落、丘陵はスギ・ヒノキ・サワラ植林とモチツツジ-アカマツ群集が多くを占める。最下流域は市街地となる。

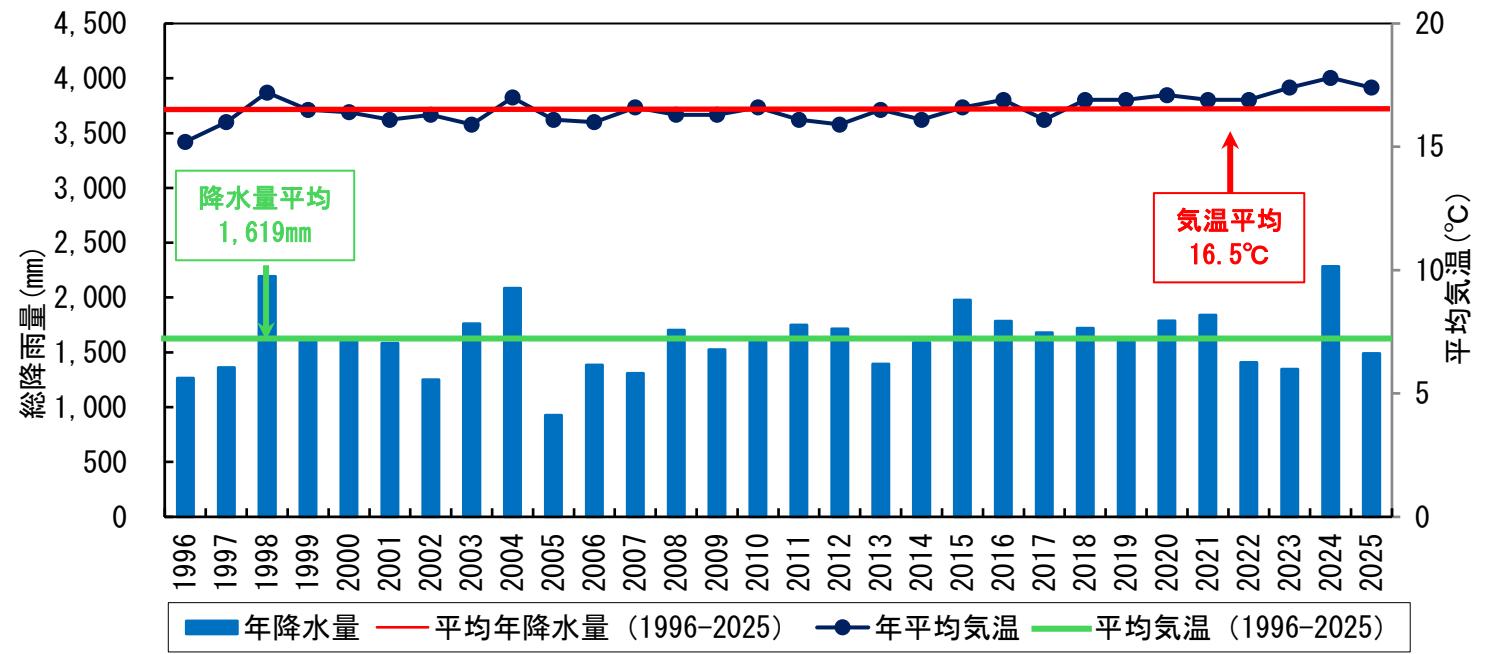




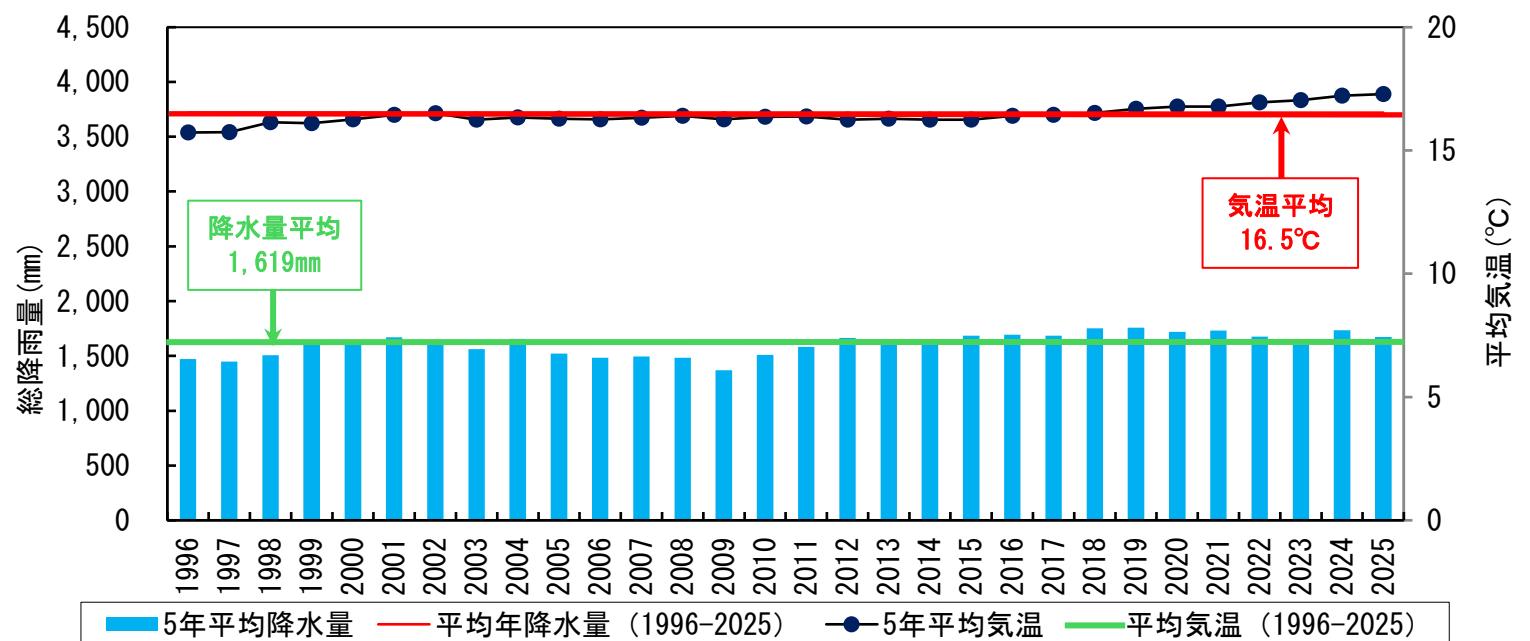
- 津市における年間気温・降水量の平年値(1996～2025年平均)は16.5℃、及び1619mmで、全国平均の14.7℃、1,628mmと比べると、気温はやや高く、降水量は同程度である。
- 5年移動平均で見ると、近年は気温がやや増加傾向、降水量は横這い傾向である。



津市における月別平均気温、降水量
(気象庁津地方気象台H8～R7の平均)



津市における年平均気温・降水量の変化

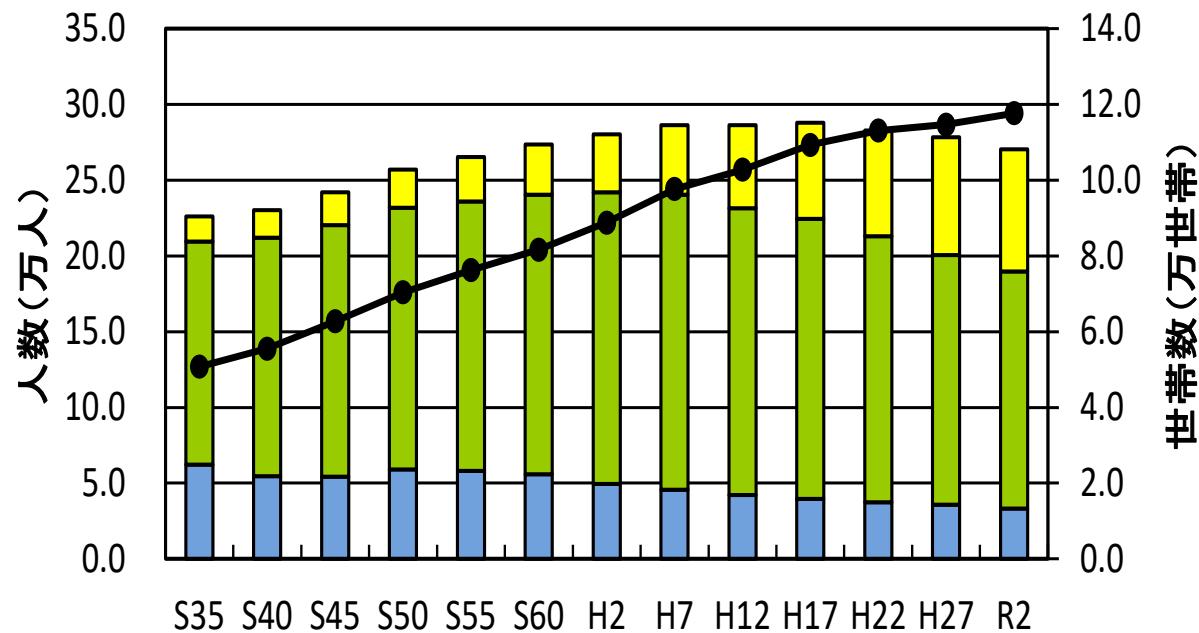


5年移動平均気温、5年移動平均降水量の変化



- 津市の世帯数は増加傾向が続いているが、人口は平成17年度以降、減少傾向にある。
- 流域人口は安濃川流域約3万5千人、岩田川流域約4万8千人で、安濃川は平成17年以降、岩田川は平成7年以降、減少傾向にある。世帯数は両流域とも微増傾向である。

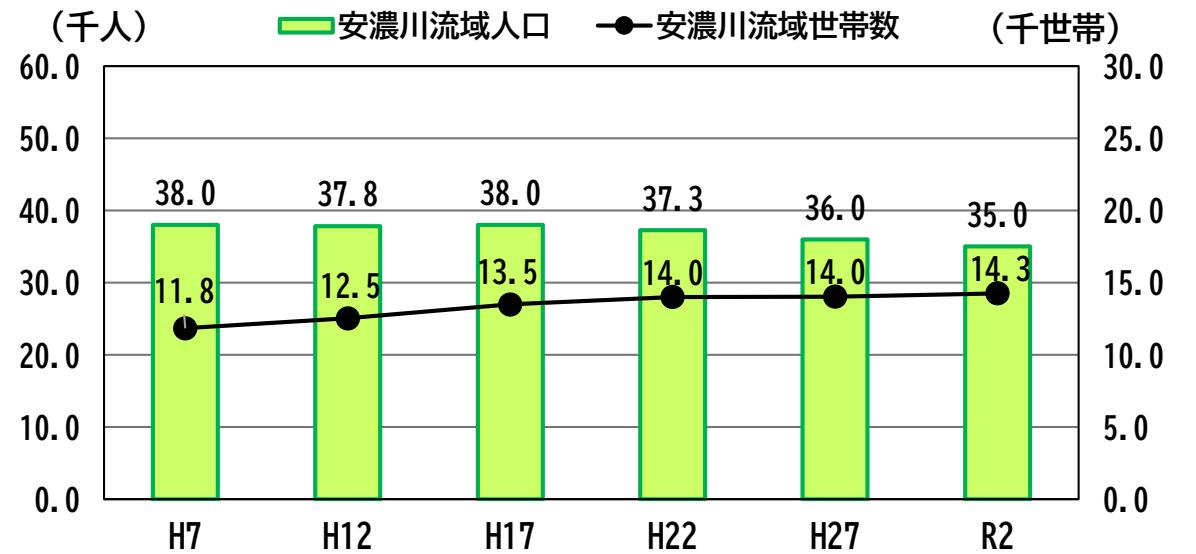
【津市の人口・世帯数】



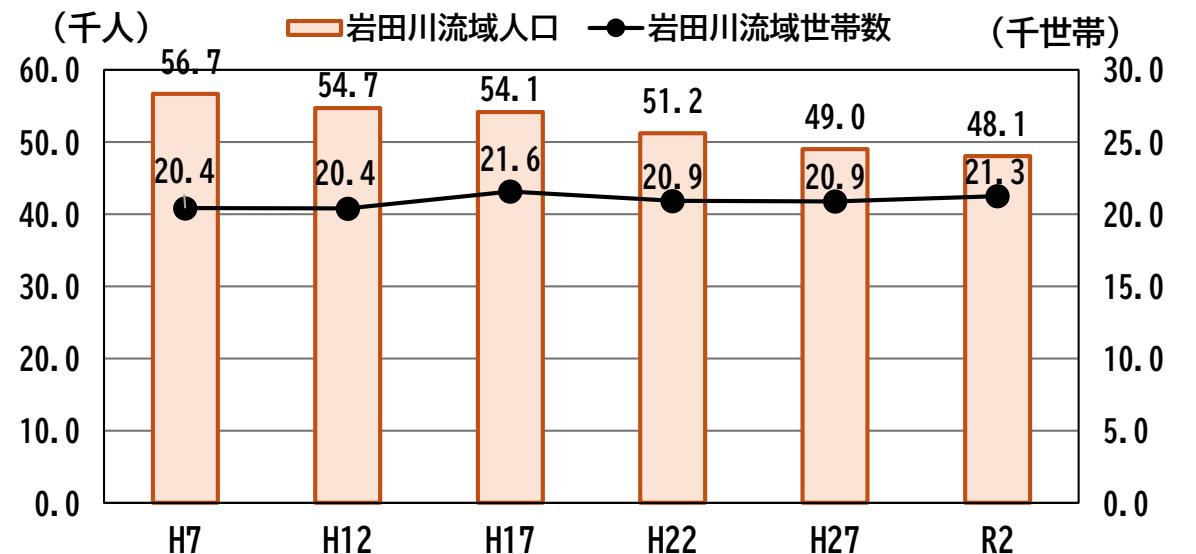
流域関連市町の人口・世帯数 (S35～R2)

出典：三重県Webサイト 市町(村)累年統計表

【安濃川流域内人口・世帯数】



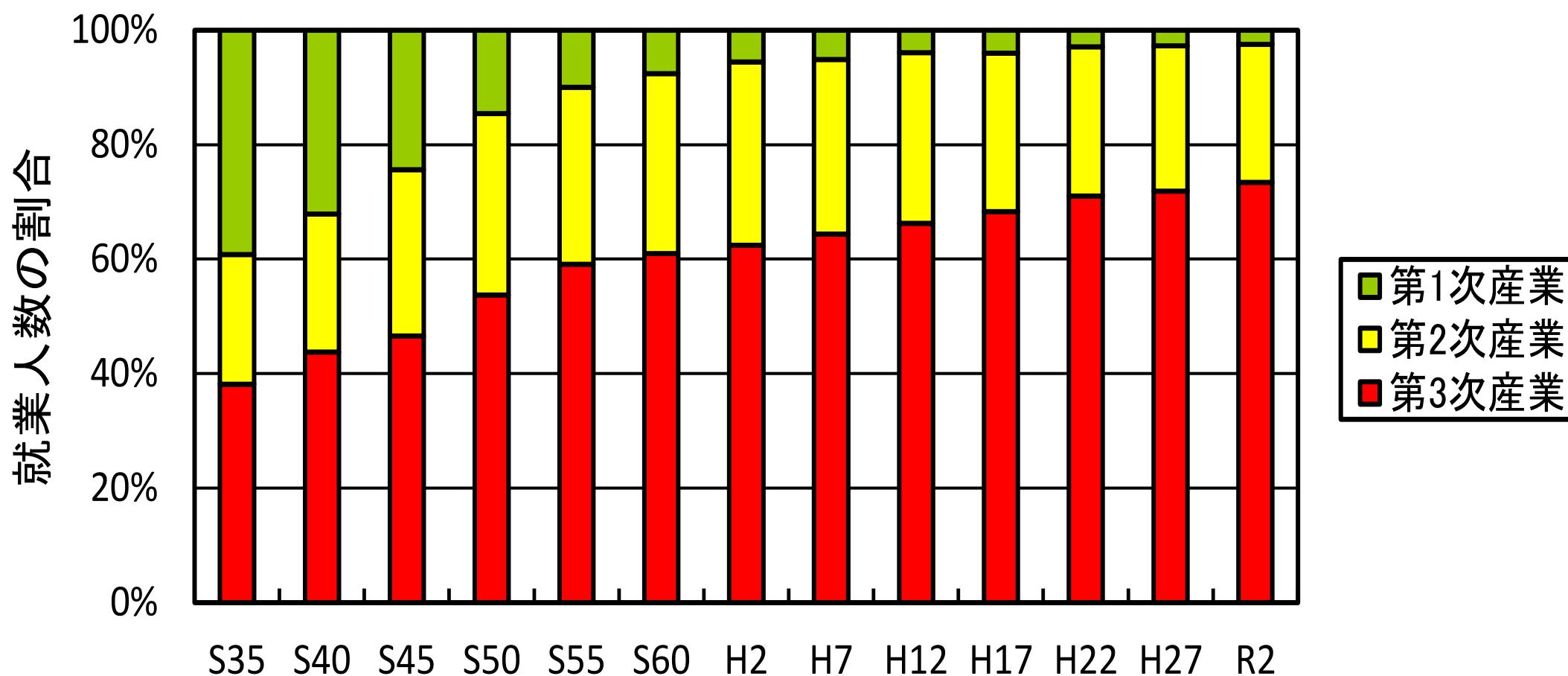
【岩田川流域内人口・世帯数】



出典：e-start統計で見る日本 4次メッシュデータ

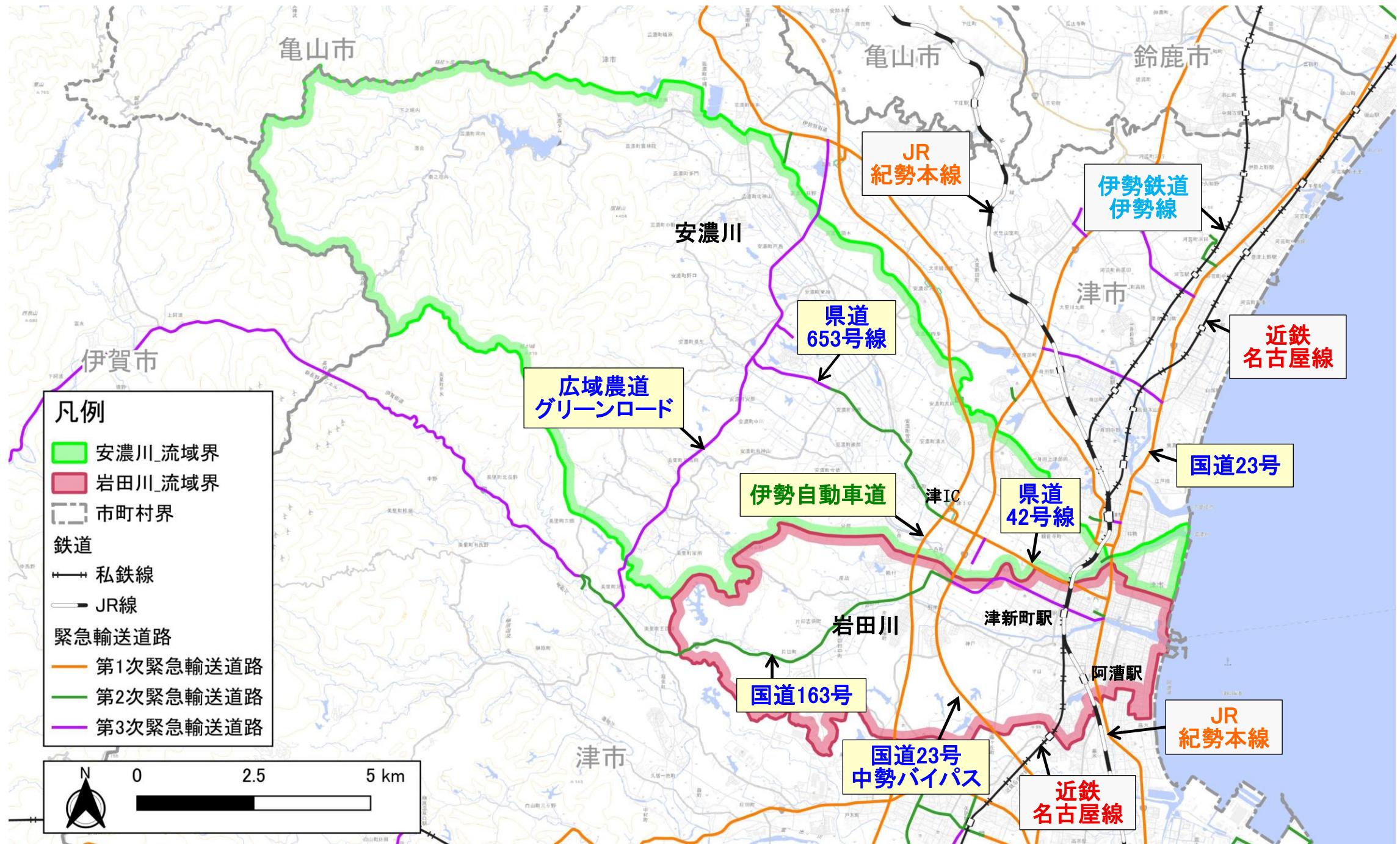


- 津市では、第3次産業従事者割合が経年的に増加しており、令和2年には70%以上を占めるに至っている。
- 第1次産業従事者、第2次産業従事者とも近年は経年的に減少傾向で、特に第1次産業従事者は減少が著しく、令和2年では約2%にまで低下している。



資料: 三重県WEBサイト 市町(村)累年統計表

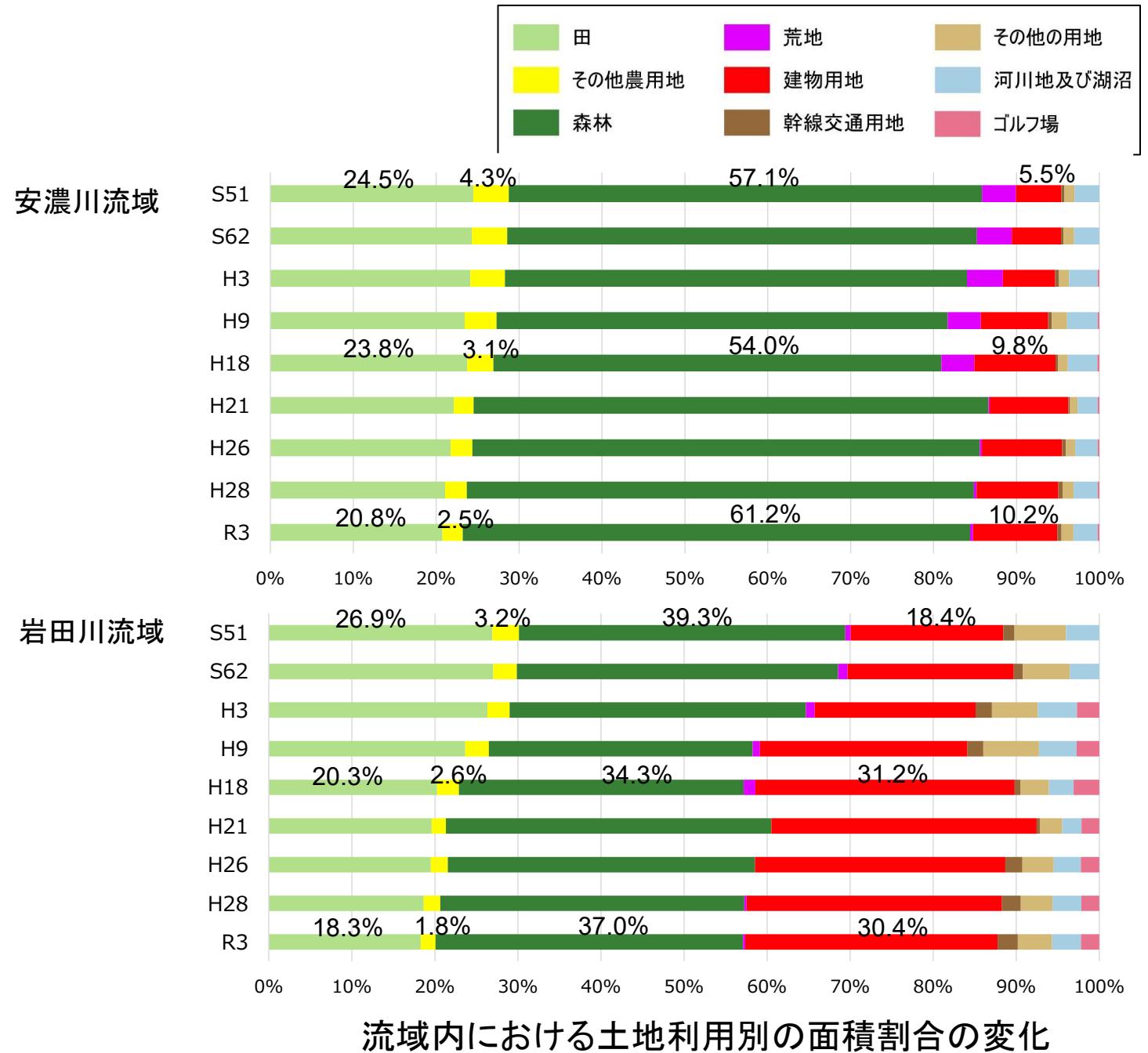
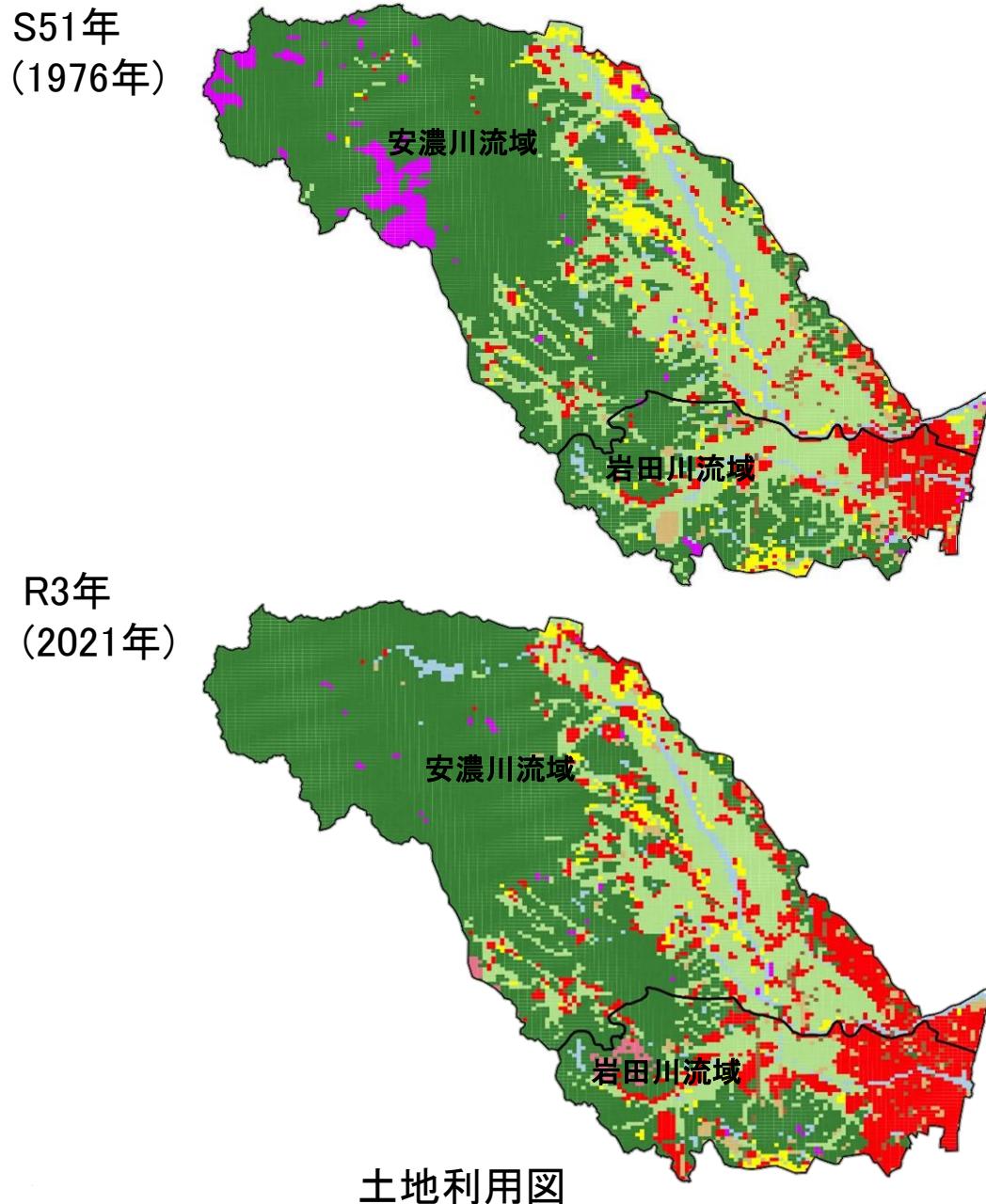
- 流域における主要な交通施設として、伊勢自動車道、国道23号、国道23号中勢バイパス、国道163号、県道42号線などの幹線道路、JR紀勢本線、近鉄名古屋線などの鉄道が位置しており、多くの橋梁が河川を横過している。



交通網図

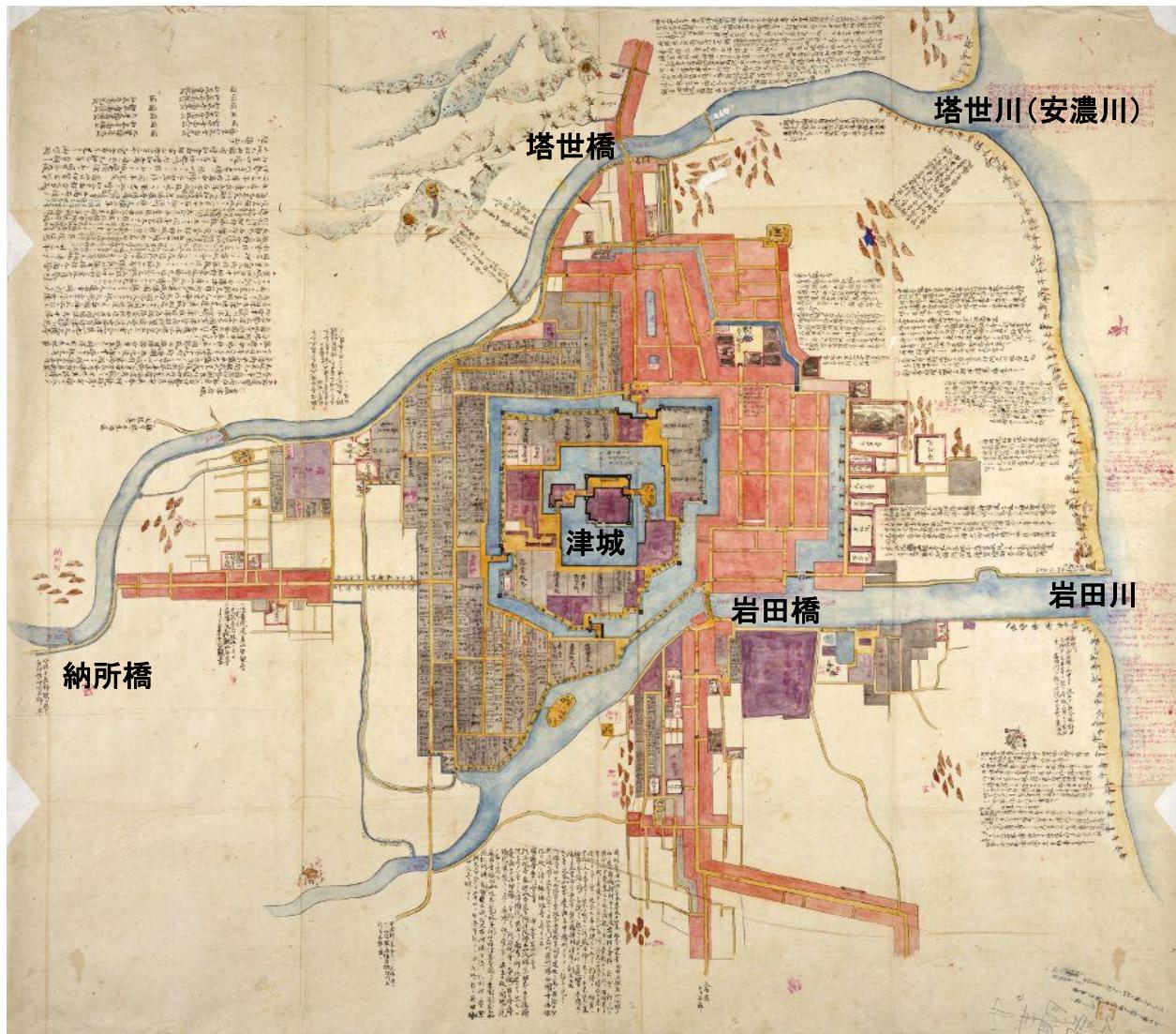
出典: 国土数値情報 R6 緊急輸送道路、R6 鉄道

- 安濃川流域・岩田川流域とも、昭和51年以降、「田」「その他の農用地」は減少傾向にある。
- 「建物用地」は、両流域とも昭和51年と比べて2倍近くに増加。下流域における既成市街地の拡大のほか、中流域の丘陵地において宅地化が進行した。
- 平成18年以降、土地利用の変化は鈍化しており、「建物用地」は横這い傾向にある。



※その他の用地: 運動競技場、空港、競馬場・野球場・学校港湾地区・人工造成地の空地等
 ※データの作成方法の変更により、平成21年以降の土地利用集計結果は、前回までの結果と大きく異なる場合がある

- 江戸時代、初代藩主**藤堂高虎**(とうどうたかとら)は、津の城下町の整備とともに治水にも注力した。
- 藤堂氏は安濃川の洪水から城下町を守るため、城下町近傍には粘土で固めた堤防を築き、その上流は篠竹を密植して堤防の強度を高めた。
- また、大出水時は**三泗堤防**を切って、安濃川の水を岩田川に流すことにより安濃川の洪水を調節した。その代わりとして住民には“無税”という特権が与えられていた。
- 三泗堤防**は今でも周囲より低く、洪水時に安濃川の水位が上がると、三泗川へ越流する。



嘉永期(1848~1854年)における津城下の状況

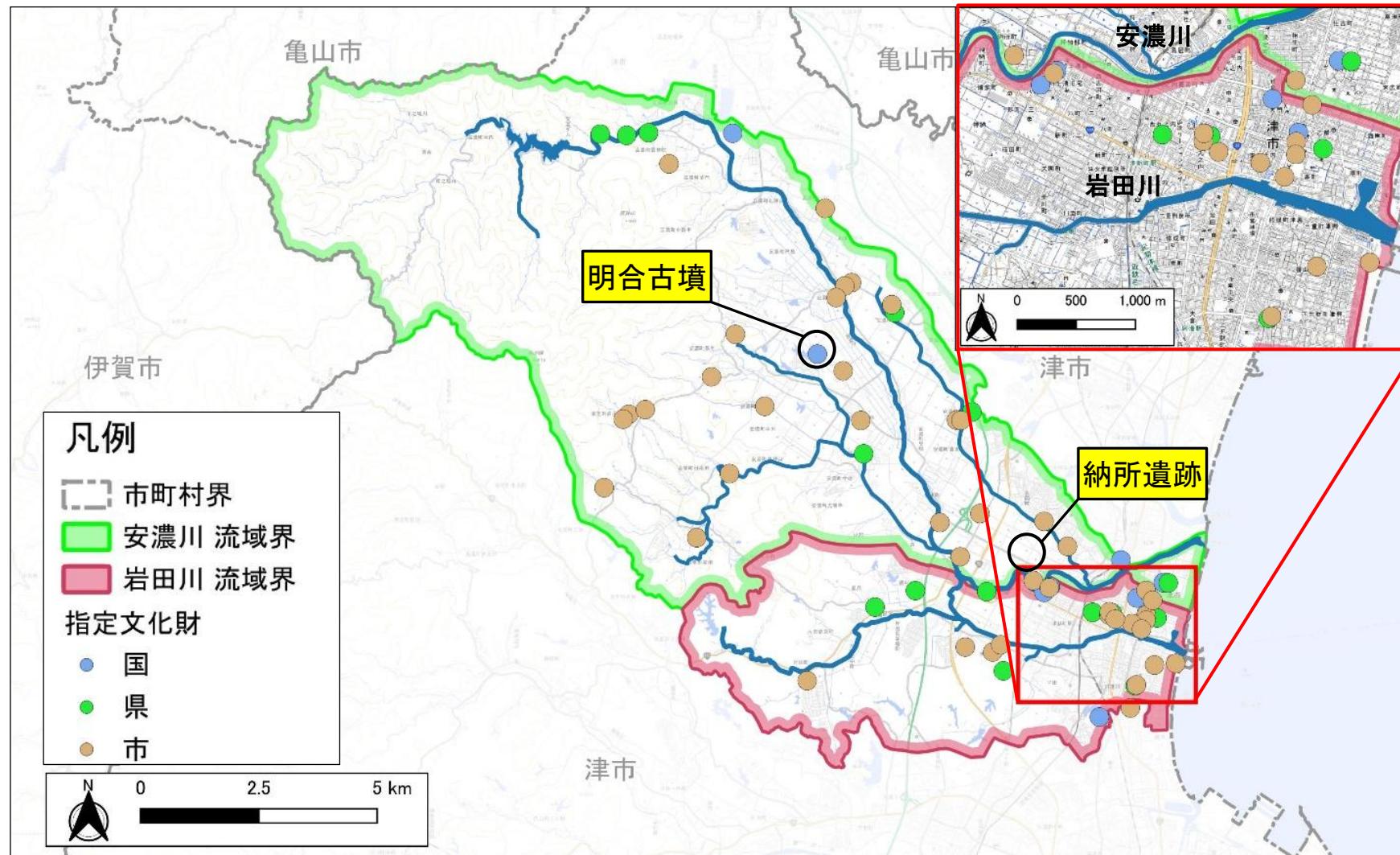
出典：「津城下図(嘉永期写)」(平成24年, 津市教育委員会)



三泗堤防付近の越流状況

平成16年9月の台風21号に伴う豪雨により、安濃川水位が上昇、三泗堤防で越流が発生した。

- 安濃川・岩田川流域内における**指定文化財**として、国指定15件、県指定27件、市指定89件の計**131件**が存在している。
- 流域を代表する文化財として、国指定の史跡である「**明合(あけあい)古墳**」があげられる。
- その他、指定文化財ではないが、安濃川下流域の「**納所(のうそ)遺跡**」は、弥生時代前期から古墳時代中期にかけての大複合遺跡で、県内有数の拠点集落だったと推測されている。



写真出典：津市観光協会HP

明合古墳（国史跡）

両辺に造出しが付く2段築成の方墳で、造出しを含めた全長は81m、高さ約10mあり、県下最大、全国でも方墳の中で第10位の規模がある。5世紀前半～6世紀初頭に形成され、安濃川流域の首長墳として築造されたものと推察されている。

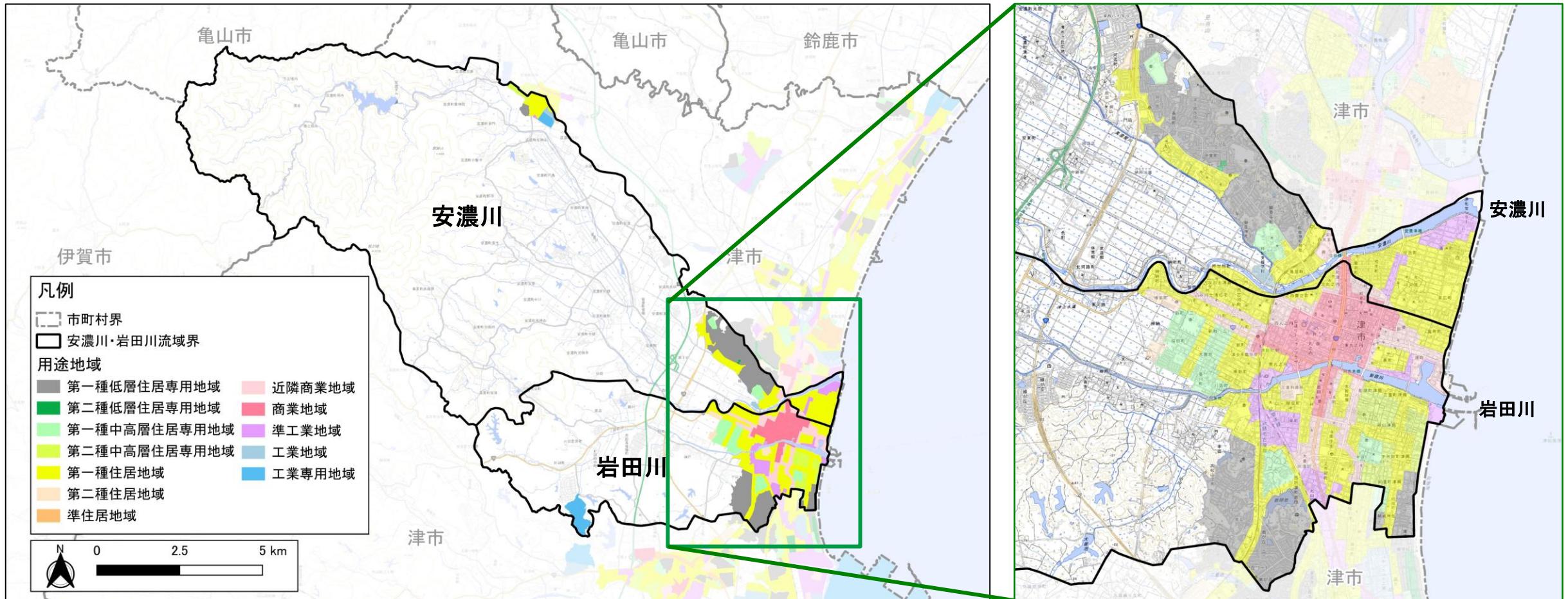
参考：「津市埋蔵文化財センター情報 まいぶん津」(2006.12.28)

安濃川・岩田川流域内における文化財位置図

都市計画区域

- 下流域の安濃川及び岩田川には含まれるエリアは商業地域に指定され、その周囲を囲むように、第一種低層住居専用地域等が指定されている。また、安濃川中流部左岸側(旧芸濃町)や岩田川上流部右岸側にも第一種住居地域や工業専用地域等の指定がされている。

都市計画区域



都市計画区域内の用途地域の指定状況

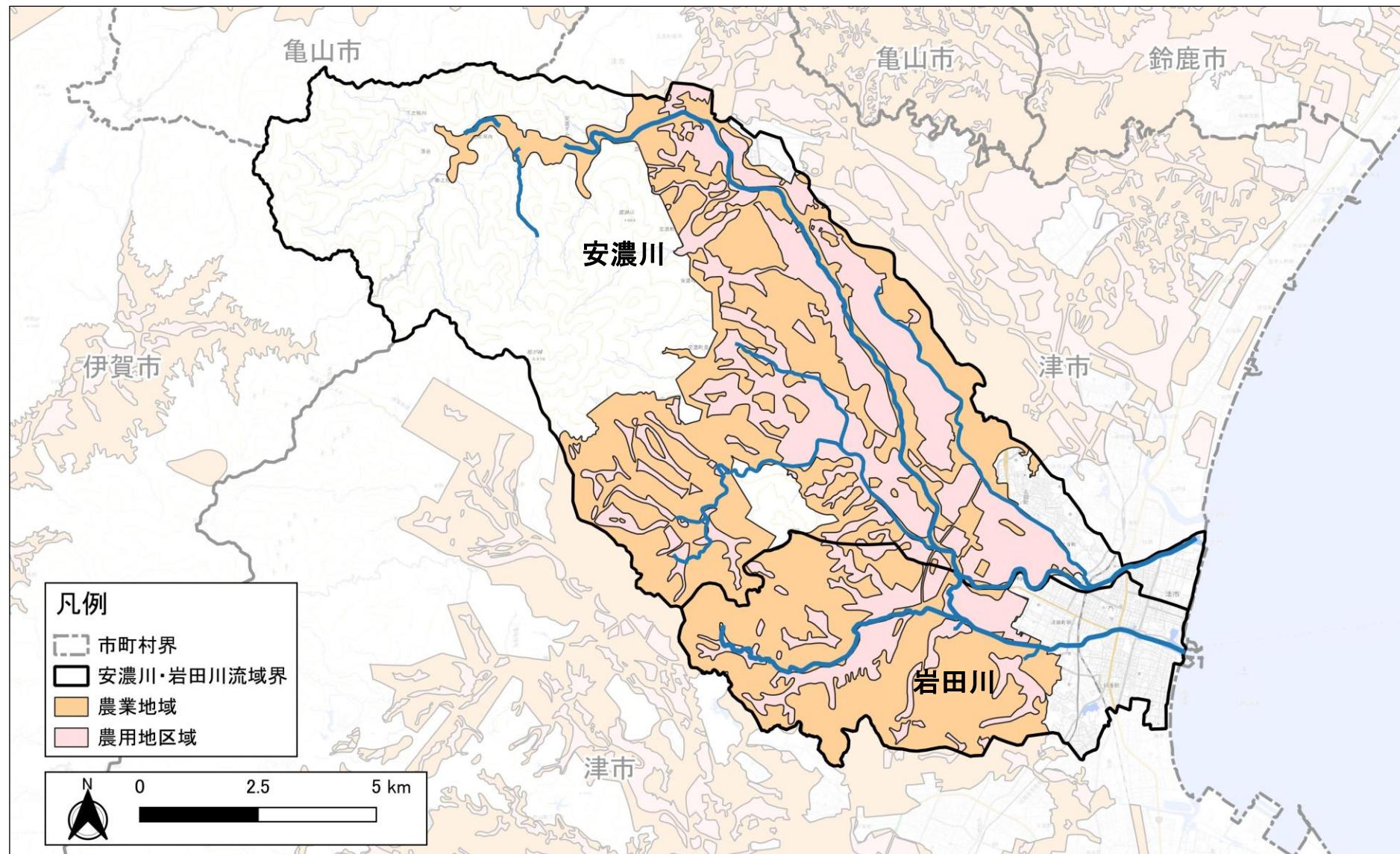
津市街地付近の拡大図

資料:国土数値情報 用途地域データ(R1)

■農業振興地域

- 安濃川中流～下流域、及び岩田川中流～上流域を中心とする広い範囲が農業地域、もしくは農用地区域に指定されている。

農業振興地域



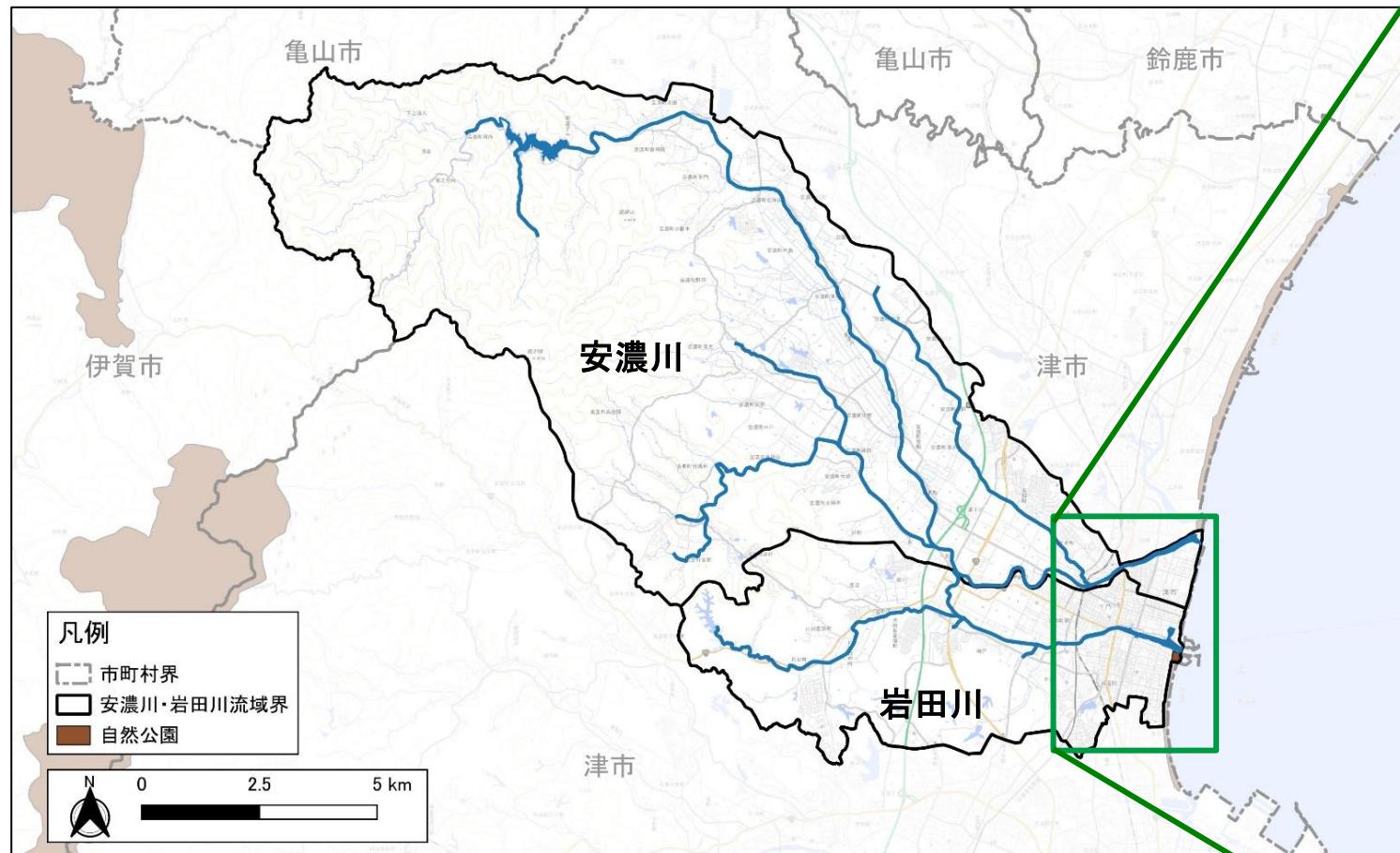
農業振興地域の指定状況

資料:国土数値情報 農業地域データ(R1)

■ 自然公園

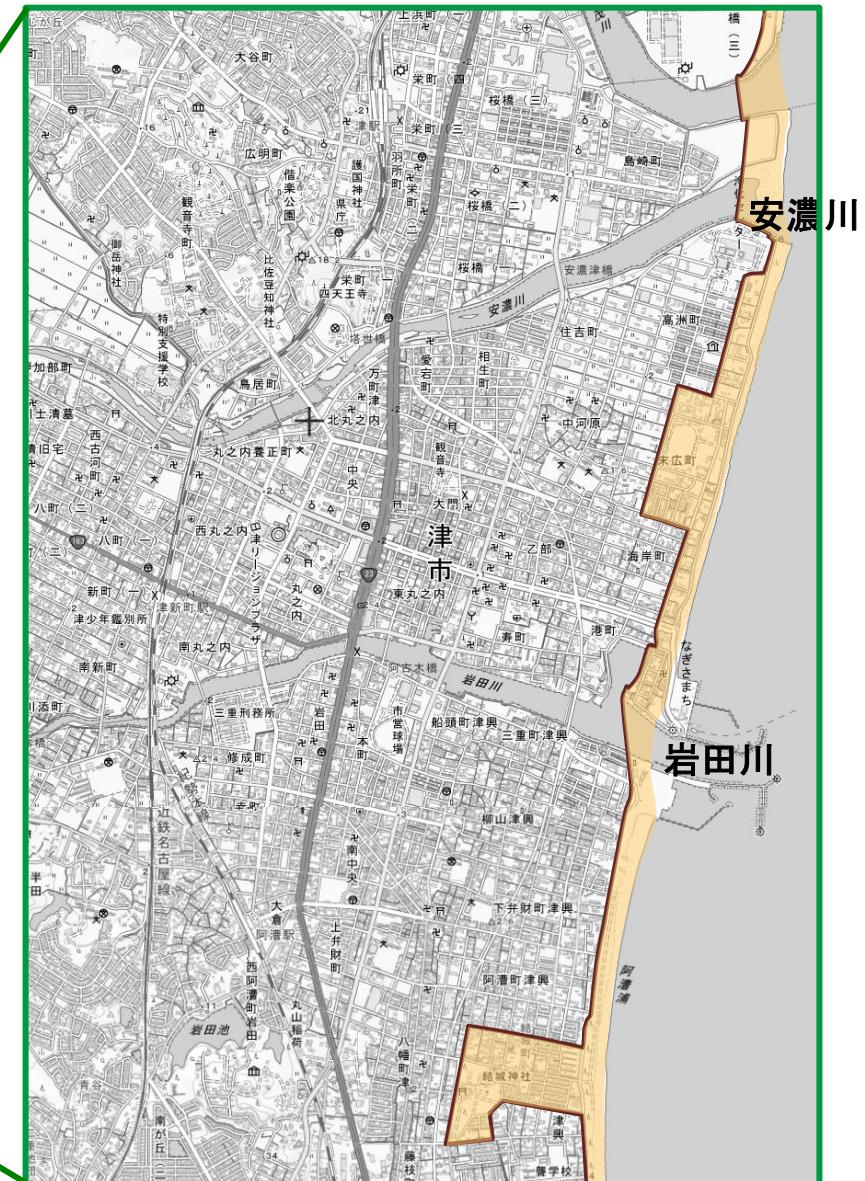
- 海岸線に沿った帯状の地域が**県立伊勢の海**(いせのうみ) **自然公園**に指定されている。

自然公園



自然公園の指定状況

出典: 国土数値情報 自然公園地区データ(H27)



拡大図
(県立伊勢の海自然公園)

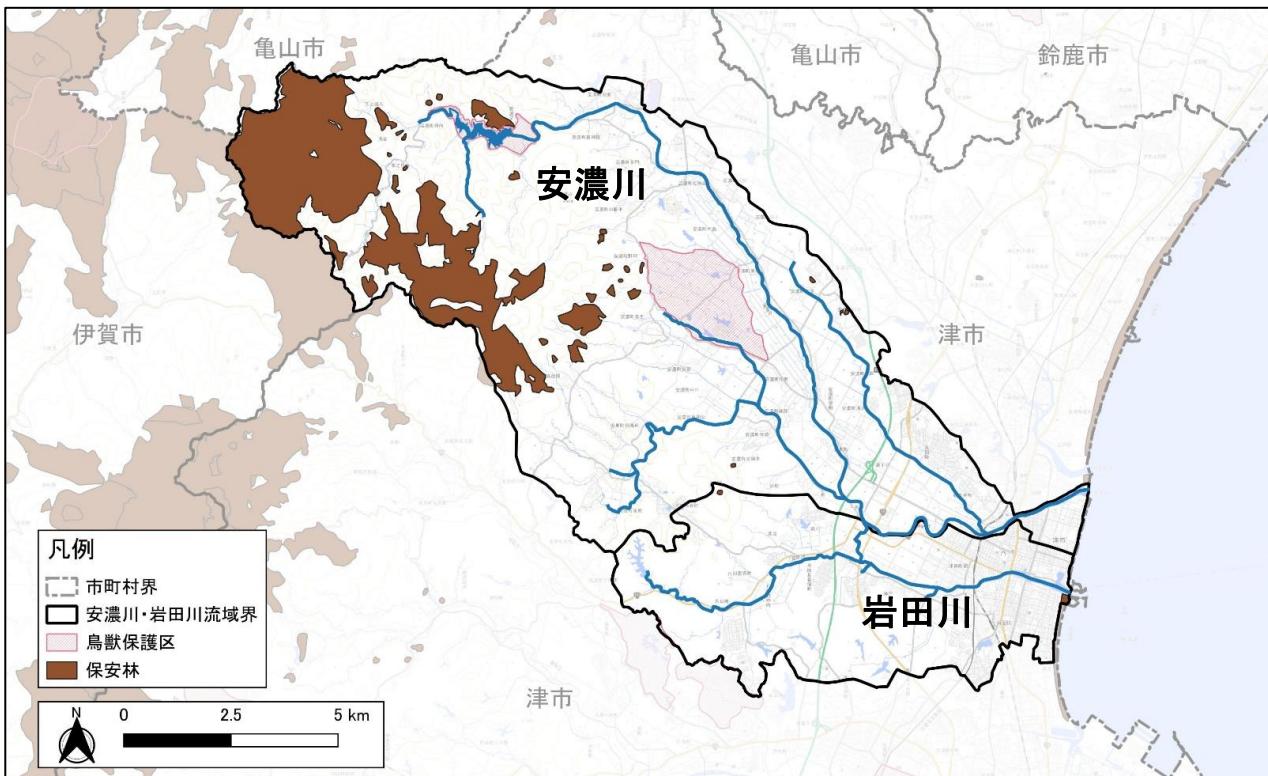
■鳥獣保護区・保安林

- 安濃川中流部と安濃ダム周辺に「鳥獣保護区」が指定されている。また、「保安林」は安濃川上流部にまとってみられるほか、安濃川中流部や岩田川上流部にも点在している。

■土砂災害警戒区域等

- 安濃川・岩田川上流域の山麓部に位置する谷部を中心に、土砂災害警戒区域がある。また、安濃ダム周辺には、土砂災害特別警戒区域に指定されている谷筋も複数見られる。

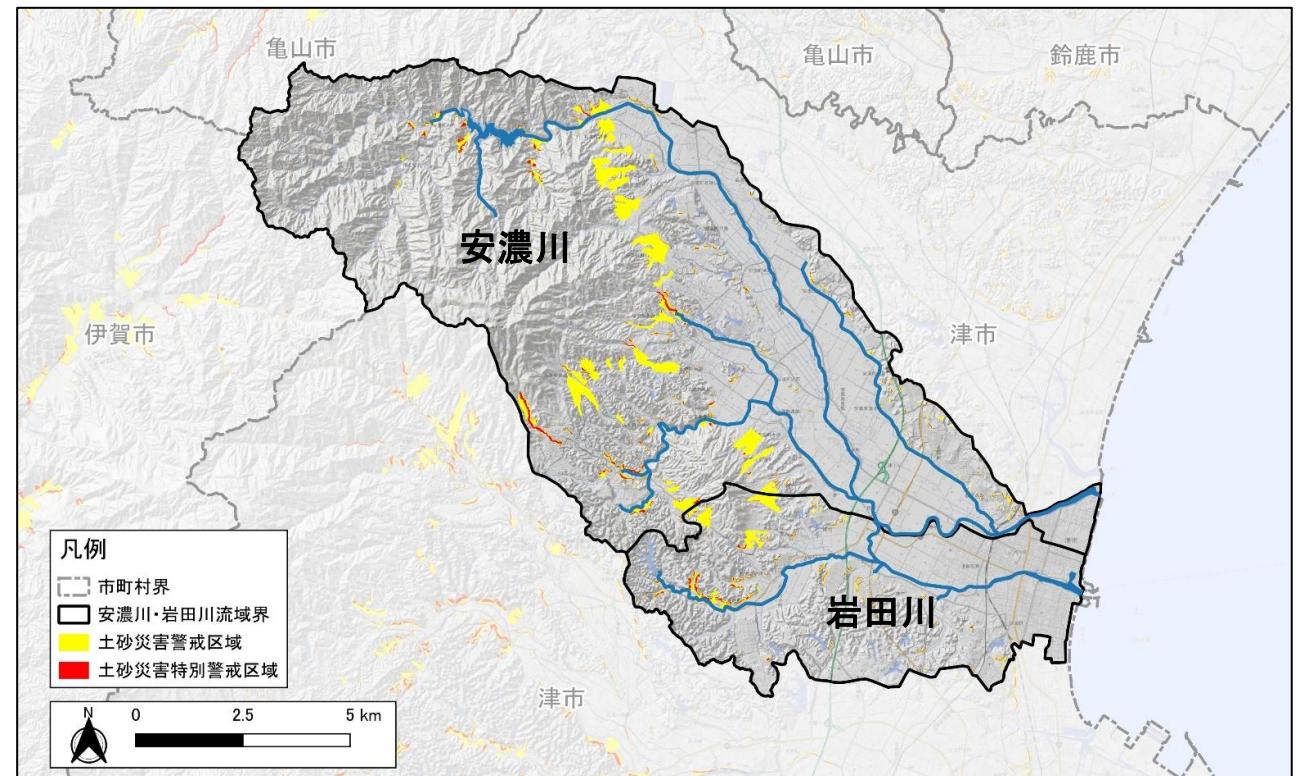
鳥獣保護区、保安林



環境関連法指定状況

出典:国土数値情報 鳥獣保護区データ(H27)

土砂災害警戒区域等



土砂災害防止法に基づく指定区域

出典:国土数値情報 土砂災害警戒区域(R6)



目次

1. 流域の概要
- 2. 現在の計画**
3. 気候変動への対応方針
4. 河川の現況
5. 治水の現状と課題
6. 利水の現状と課題
7. 環境の現状と課題
8. 今後の進め方



河川整備基本方針の概要

- **安濃川**: 年超過確率1/100の降雨による洪水を対象とし、計画高水流量を1,100m³/sとする。
- **岩田川**: 年超過確率1/100の降雨による洪水を対象とし、計画高水流量を460m³/sとする。
- **三泗川**: **安濃川**から50m³/sを**岩田川**へ分派する。

安濃川

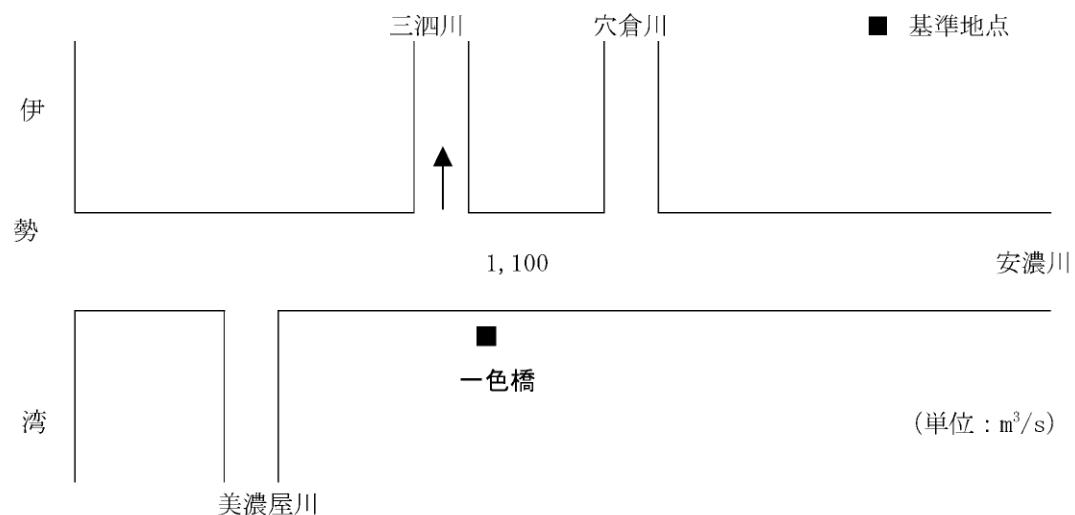
基本高水のピーク流量等一覧表

河川名	基準地点	基本高水のピーク流量 (m ³ /sec)	洪水調節施設による調節流量 (m ³ /sec)	河道への配分流量 (m ³ /sec)
安濃川	一色橋	1,400	300	1,100

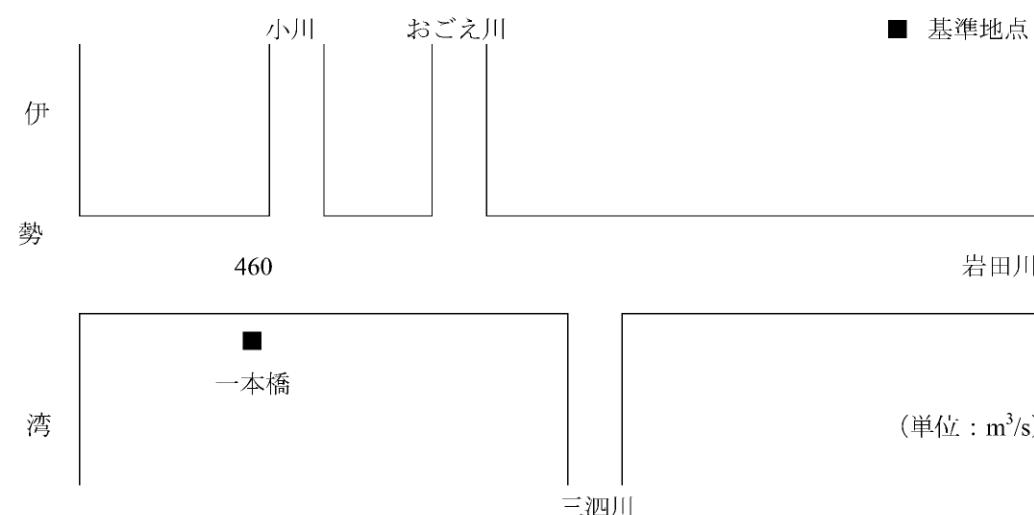
岩田川

基本高水のピーク流量等一覧表

河川名	基準地点	基本高水のピーク流量 (m ³ /sec)	洪水調節施設による調節流量 (m ³ /sec)	河道への配分流量 (m ³ /sec)
岩田川	一本橋	460	—	460



河川整備基本方針計画流量配分図



河川整備基本方針計画流量配分図



河川整備計画の概要（1）計画流量配分

- **安濃川**：年超過確率1/20の降雨による洪水を対象とし、計画高水流量を850m³/sとする。
- **岩田川**：年超過確率1/20の降雨による洪水を対象とし、計画高水流量を290m³/sとする。
- **三泗川**：安濃川から25m³/sを岩田川へ分派する。

安濃川

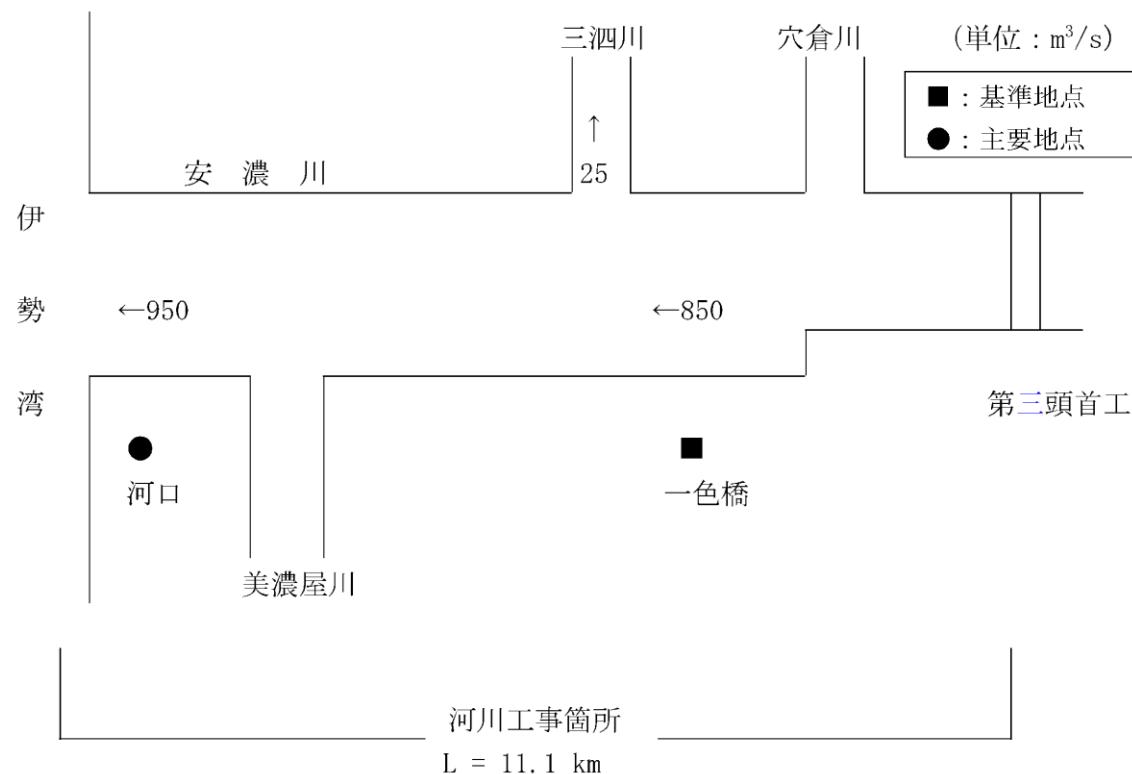
基本高水のピーク流量等一覧表

河川名	基準地点	基本高水のピーク流量 (m ³ /sec)	洪水調節施設による調節流量 (m ³ /sec)	河道への配分流量 (m ³ /sec)
安濃川	一色橋	850	—	850

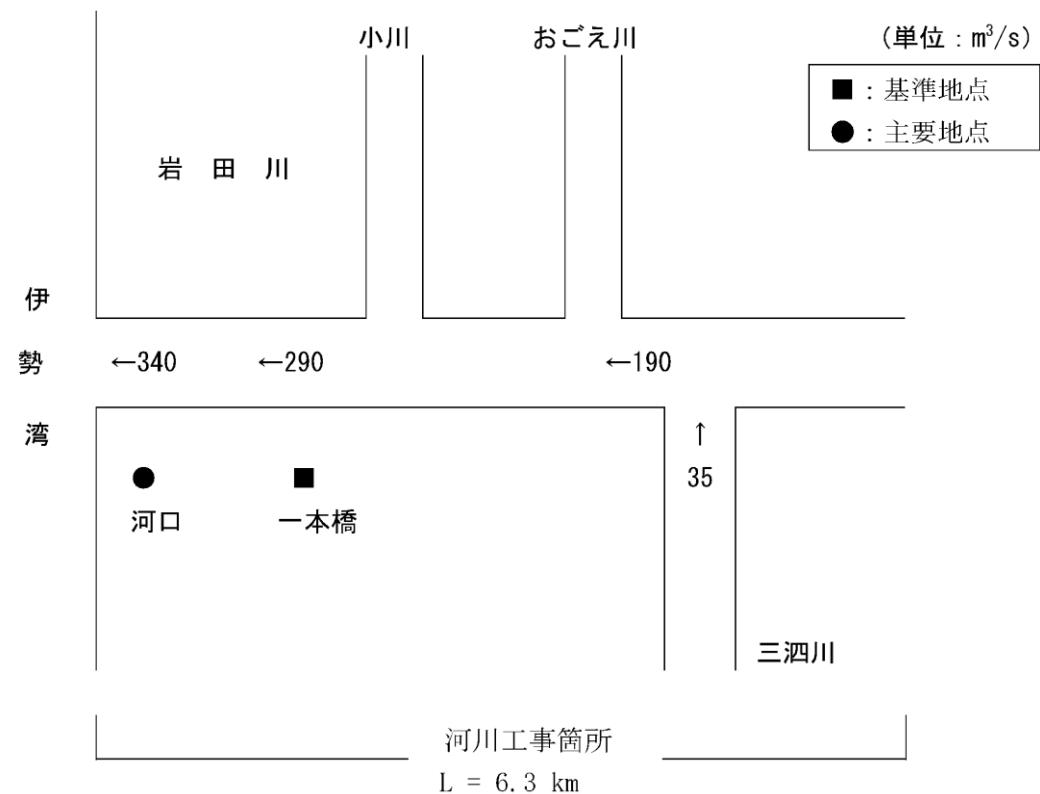
岩田川

基本高水のピーク流量等一覧表

河川名	基準地点	基本高水のピーク流量 (m ³ /sec)	洪水調節施設による調節流量 (m ³ /sec)	河道への配分流量 (m ³ /sec)
岩田川	一本橋	290	—	290



整備計画流量配分図



整備計画流量配分図



河川整備計画の概要（2）施工内容

- **安濃川**：河口から安東大橋付近は河床掘削、安東大橋付近から伊勢自動車道付近は引堤・護岸整備及び河床掘削、伊勢自動車道から第三頭首工付近は低水路掘削を行う。
- **岩田川**：河口から三泗川合流付近は引堤・護岸整備及び河床掘削、三泗川合流点付近から伊勢自動車道上流付近は築堤・護岸整備・河床掘削を行う。
- **三泗川**：岩田川合流点から安濃川分派地点は河道拡幅（開削）及び築堤・護岸を行う。



河川整備の進捗状況

- 現在の河川整備計画では、安濃川の河口から11.1km、岩田川の河口から6.3km、三泗川の全区間1.1kmが整備対象区間である。
- 岩田川は河口から三泗川合流点付近まで完成。合流点より上流区間は一部未改修である。
- 三泗川は中流部にある湿地の下流まで完成。上流区間は改修中である。
- 安濃川は下流部の局所的な改修のみとなっている。
- 現在の河川整備計画における進捗率は、3河川全体で20.9%となっている。

※進捗率はR7時点事業費ベース





目次

1. 流域の概要
2. 現在の計画
- 3. 気候変動への対応方針**
4. 河川の現況
5. 治水の現状と課題
6. 利水の現状と課題
7. 環境の現状と課題
8. 今後の進め方

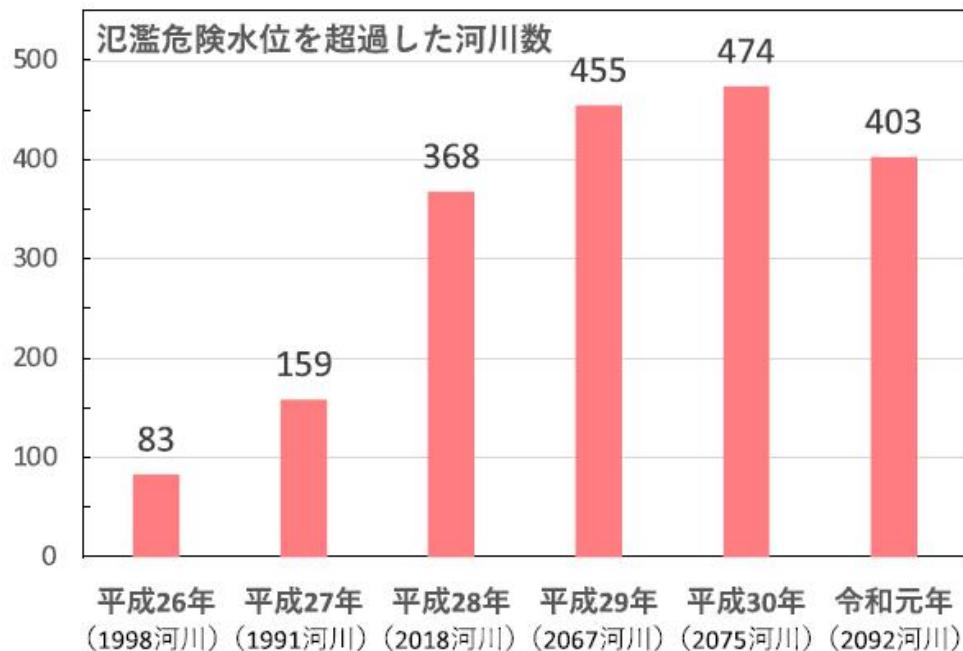
■近年の水災害の現状

- 近年、全国的に1時間の降水量が50mmを超える雨が増加している傾向にある。約30年前に比べると、約1.4倍に増加しており、今後もさらに増加すると予測されている。
- 雨の増加に伴い、避難を開始する目安となる「氾濫危険水位」を超える洪水の発生回数も増加しており、全国的に大きな被害が発生している



出典：気象庁資料より作成（気象庁が命名した気象現象等を追記）

(河川数)



出典：気候変動を踏まえた水災害対策検討小委員会「気候変動の影響について」



- 国の「気候変動を踏まえた治水計画に係る技術検討会」による提言では、すべての河川整備基本方針を直ちに見直す必要性はないものの、基本方針流量を超過する洪水が発生した場合や河川整備が進捗し、新たな段階に進む場合には、気候変動の影響を踏まえて河川整備基本方針の見直しを行うべきとされている。

気候変動を踏まえた治水計画のあり方 提言(令和3年4月改訂)

(1-1) 河川整備基本方針の見直し

- 目標とする治水安全度を温暖化が進行した気候下でも確保するためには、基準地点における基本高水のピーク流量について、あらかじめ気候変動による影響を踏まえた降雨の予測計算結果等も活用し、将来の気候状況を適切に想定して設定することが基本となる。
- 現在の河川整備はまだ整備途上であり、多くの河川においては河川整備計画の目標は河川整備基本方針の目標と比べると相当低いところに留まっていることから、まずは速やかに現在の河川整備基本方針に向けた整備を加速することを優先させる必要がある。
- 気候変動予測には不確実性があり、予測結果は将来見直される可能性もあるものの、河川整備基本方針についても順次見直すべきである。具体的には、河川整備基本方針策定後に大規模な洪水が発生して基本高水のピーク流量を超過した場合や、河川整備計画を検討する過程の中で、洪水調節施設と河道の配分流量を変更する必要がある河川等から、順次、降雨量変化倍率を活用すること等により、気候変動を踏まえた基本高水を設定するべきである。

- 国の「気候変動を踏まえた治水計画に係る技術検討会」による提言では、河川整備計画については、整備計画の早期達成を目指すとともに、合わせて気候変動の影響も考慮した計画に見直していく必要があるとされている。

気候変動を踏まえた治水計画のあり方 提言(令和3年4月改訂)

(1-2) 河川整備計画の目標の見直し

- 河川整備基本方針の実現に向けて、今後 20～30 年間の河川整備内容を定める河川整備計画においては、多くの一級河川で過去（主に戦後）に発生した最大の豪雨が発生しても被害の発生を防止することを目標にしている。しかし、河川整備の目標としては、豪雨において観測もしくは算定された流量を目標とする現在の方式では、気候変動によって実質的な目標安全度が年々低下していることを意味している。
- 一方、現在の河川は整備途上であり、多くの河川において河川整備計画の目標は河川整備基本方針の目標安全度と比べると相当低いところにとどまっていることから、まずは速やかに現在の河川整備計画の早期達成を目指すとともに、合わせて河川整備計画を気候変動の影響も考慮した計画に見直していく必要がある。
- 河川整備計画を見直す場合、現在の河川整備計画において目標とする洪水に相当する治水安全度を、河川整備計画の完成目標とする時点においても確保することを目指すべきであり、その際には降雨量変化倍率を用いるなど適切な目標設定を行う必要がある。

■気候変動への対応方針

- 気候変動を考慮した計画雨量の検討方針
 →「気候変動を踏まえた治水計画に係る技術検討会」による提言や、国の見直し事例では、気温2℃上昇時の降雨量変化倍率を1.1倍とし、降雨データは2010年までのデータを使用している
 →以上より、三重県においても**2010年までの降雨データを使用し、1.1倍した雨量を計画に用いることとする。**

気候変動を踏まえた治水計画のあり方 提言

表-2 降雨量変化倍率

		降雨継続時間 12時間以上	降雨継続時間 3時間以上12時間未満	降雨継続時間 3時間未満
4℃上昇		1.3	1.4	—
	北海道、九州北西部	1.4	1.5	—
	その他の地域 (沖縄含む)	1.2	1.3	—
2℃上昇		1.1	1.1	1.1
	北海道	1.15	1.15	1.15
	その他の地域 (沖縄含む)	1.1	1.1	1.1

【適用範囲】

- 4℃上昇時における降雨継続時間 12 時間未満の値は、3 時間未満では適用できない。
- 雨域面積 100km² 以上について適用する。ただし、100km² 未満の場合についても降雨量変化倍率が今回設定した値より大きくなる可能性があることに留意しつつ適用可能とする。
- 年超過確率 1/200 以上の発生頻度の降雨を対象とする計画に適用する。

【留意事項】

- 降雨量変化倍率は、現在気候に対する将来気候の状態を表す。なお、4℃上昇時の降雨量変化倍率は、21 世紀末時点の将来気候であり、2℃上昇時の降雨量変化倍率については、RCP2.6 では 2040 年頃以降の気温上昇が横ばいとなることから、2040 年以降の値として適用可能。

【計算条件】

- 現在気候の実験期間は、d4PDF(5 km,SI-CAT)が 1980～2011 年（中間年 1995 年）、d4PDF(5 km,yamada)が 1951～2010 年（中間年 1980 年）であり、中間年でみると 15 年の差があるが、現在の治水計画では主に戦後以降のデータを対象としているため、d4PDF(5 km,yamada)の実験期間である 1951～2010 年を基準とする。なお、1951～1980 年を基準とすると、d4PDF(5 km,SI-CAT)の降雨量変化倍率は約 0.02 倍低く評価されているが、それも考慮した上で上表のと

出典:「気候変動を踏まえた治水計画のあり方」提言
 (令和3年4月改訂)国土交通省
 (https://www.mlit.go.jp/river/shinngikai_blog/chisui_kentoukai/index.html)

見直し対象河川について

(R4委員会資料)



- 気候変動の影響を考慮した河川整備基本方針・河川整備計画の見直しは、策定から年数が経過し、河川整備が進捗した河川であることに加え、洪水の規模に影響する地形的条件を勘案して以下の6河川を選定した。

今回

原案

原案(案)

水系名	整備計画／ 都道府県策定日	整備計画／ 整備対象河川	市町	経過年数 (R4末時点)	流域面積 (km ²)	山地比率 (%)	築堤区間長 (m)	築堤区間の 宅地工場等比率 (%)
アノウ 安濃川	平成15年5月13日	安濃川	津市	19	110.7	52%	17,500	14%
イワタ 岩田川	平成15年5月13日	岩田川、三泗川	津市	19	32.6	36%	5,100	12%
ミヅキ 三滝川	平成18年1月17日	三滝川	四日市市 菰野町	17	57.4	45%	8,900	30%
カイゾウ 海蔵川	平成18年1月17日	海蔵川	四日市市	17	36	15%	10,000	19%
イナベ 員弁川	平成20年12月26日	員弁川	桑名市 いなべ市 四日市市 東員町 川越町 朝日町 菰野町	14	264.9	50%	26,200	21%
ミヅタリ 三渡川	平成21年1月9日	三渡川、百々川	松阪市	14	55.1	18%	3,500	29%



目次

1. 流域の概要
2. 現在の計画
3. 気候変動への対応方針
- 4. 河川の現況**
5. 治水の現状と課題
6. 利水の現状と課題
7. 環境の現状と課題
8. 今後の進め方

河道の変遷（安濃川 河口～下流域）

- 昭和21年から、河口から11.1kmの区間で河川改修が実施されているほか、伊勢湾台風の被害を受け、高潮対策事業が実施された。
- 臨海部を中心に宅地が増加しており、市街地の拡大が進んでいる。
- 河口砂州は経年的に堆積・侵食が繰り返される。

安濃川 0k～3k



河道の変遷（安濃川 下流域）

- 昭和21年から、河口から11.1kmの区間で河川改修が実施されている。
- 圃場整備、市街地拡大、幹線道路開通など、昭和30年代以降、土地利用の変化が大きい。
- 区間には三泗堤や霞堤など、古くからの治水対策が現在も残っている。

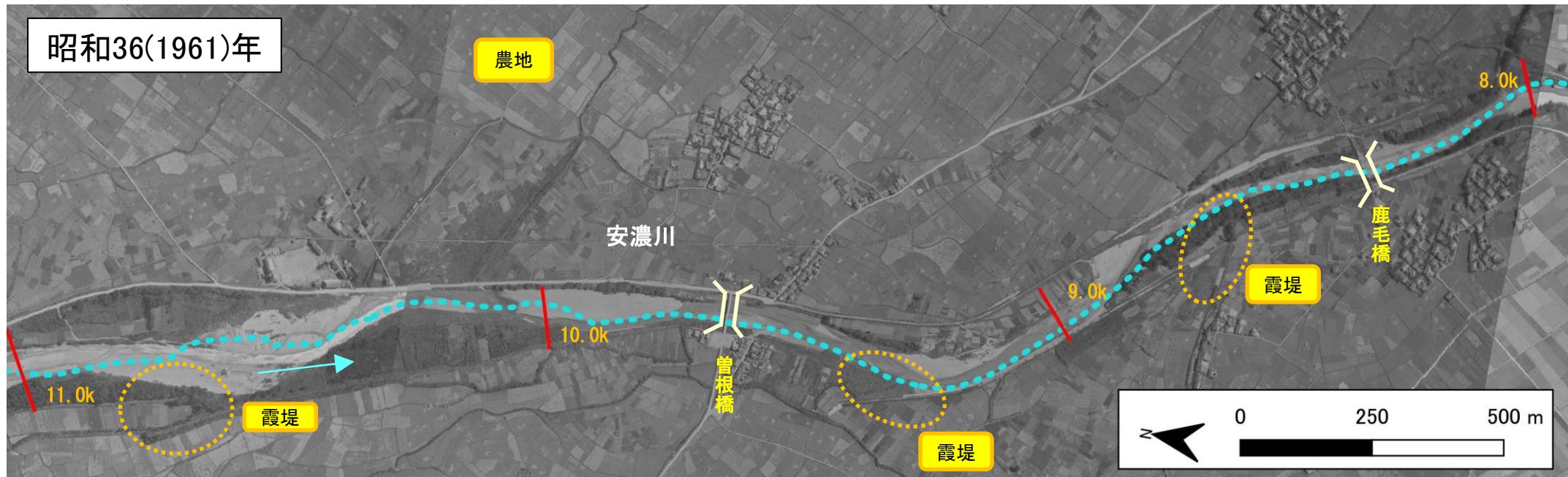
安濃川 4k~8k



河道の変遷（安濃川 下流域～中流域）

- 昭和21年から、河口から11.1kmの区間で河川改修が実施されている。
- 下流域沿川では昭和40～50年代に圃場整備が実施されたほか、一部で宅地化が進んでいる。
- 河道内では第三頭首工が建設されたほか、一部区間で樹林化が進行している。

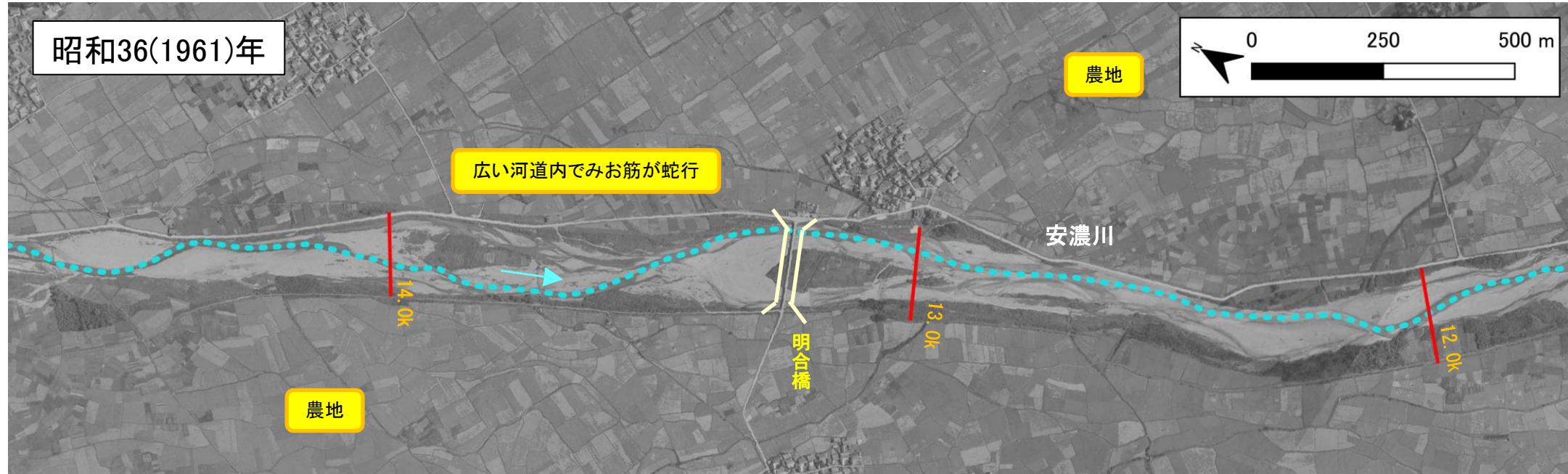
安濃川 8k～11k



河道の変遷（安濃川 中流域）

- 中流域沿川では、昭和40～50年代に圃場整備が実施された。
- 河道内は樹林化が進行し、裸地の減少、一部みお筋の固定化がみられる。

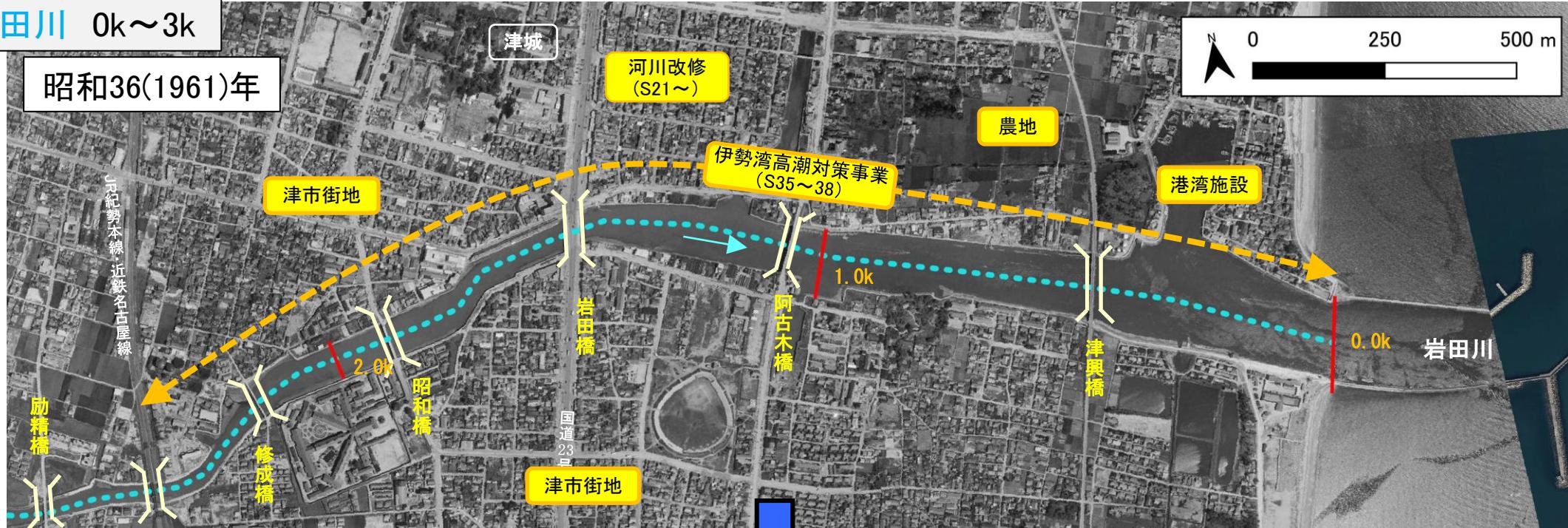
安濃川 12k～15k



河道の変遷（岩田川 感潮域（河口側））

- 沿川は古くからの市街地（城下町）であり、土地利用の高度化が進んでいる。
- 岩田川河口は江戸時代より河港として整備され水深が深く、砂州等は見られない。
- 昭和21年からの河川改修のほか、伊勢湾台風の影響を受け、高潮対策事業が実施された。

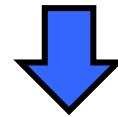
岩田川 0k～3k



河道の変遷（岩田川 感潮域～中流域）

- 岩田川左岸では平成10年代に**圃場整備**が実施されたほか、**市街地の拡大**がみられる。
- 昭和50年代に岩田川本川及び支川の**河川改修**が進み、河道を直線化している。

岩田川 4k～7k



河道の変遷（三泗川）

- 三泗川周辺は平成14～15年頃に圃場整備が実施された。
- 平成15年以降、三泗川では河道掘削、護岸整備等、河川改修が進んでいる。
- 現在、分派の効果発現に向けて工事が進捗している。





目次

1. 流域の概要
2. 現在の計画
3. 気候変動への対応方針
4. 河川の現況
- 5. 治水の現状と課題**
6. 利水の現状と課題
7. 環境の現状と課題
8. 今後の進め方

■既往洪水の被害状況

- 安濃川・岩田川流域において、昭和30～40年代には大規模な浸水被害が発生している。
- 平成15年から令和5年までの期間において、流域内で被害の記録がある水害※は8件あり、溢水が2件あったほかは、いずれも内水であった。（※：水害統計(国交省)に記載されている水害）

安濃川・岩田川流域における主な洪水被害等

年月日	発生原因	水害区域面積 (宅地その他) (ha)	水害区域面積 (農地) (ha)	床上浸水 (戸)	床下浸水 (戸)
1959(昭和34)年8月14、15日	台風6、7号	—	—	3,001※	8,268※
1959(昭和34)年9月26日	伊勢湾台風	—	—	2,782※	5,203※
1974(昭和49)年7月25日	集中豪雨	—	—	491	4,767
2004(平成16)年9月29日	台風21号	0.54	—	6	30
2012(平成24)年9月30日	台風17号	0.67	5	14	34
2014(平成26)年8月10日	台風11号	1.92	146	79	85

資料：水害統計(国土交通省水管理・国土保全局)
※は津市地域防災計画



【平成26年8月9日岩田川観音橋】



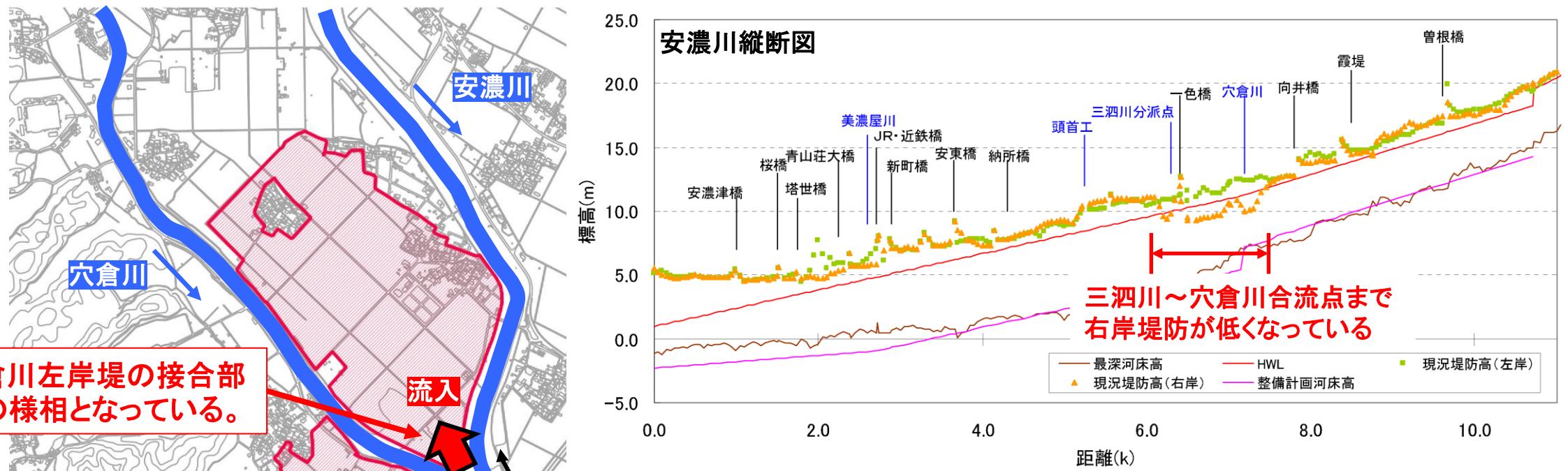
【平成16年9月29日安濃川納所付近】

平成16年台風第21号と前線による大雨
三重県では、記録的な大雨の影響で、南部を中心に土砂災害や浸水被害により甚大な被害が発生しました。
12時16分までの1時間に津で98mm/h(観測史上2位)を観測するなど、昼過ぎにかけて各地で猛烈な雨が降りました。また、29日の日降水量は、津で427mm(観測史上1位)を観測しました。
津市では短時間強雨により床下浸水の被害が多く発生するなど、県内の広い範囲で床上浸水や床下浸水の被害が発生しました。

■既往洪水の被害状況（平成26年8月洪水）

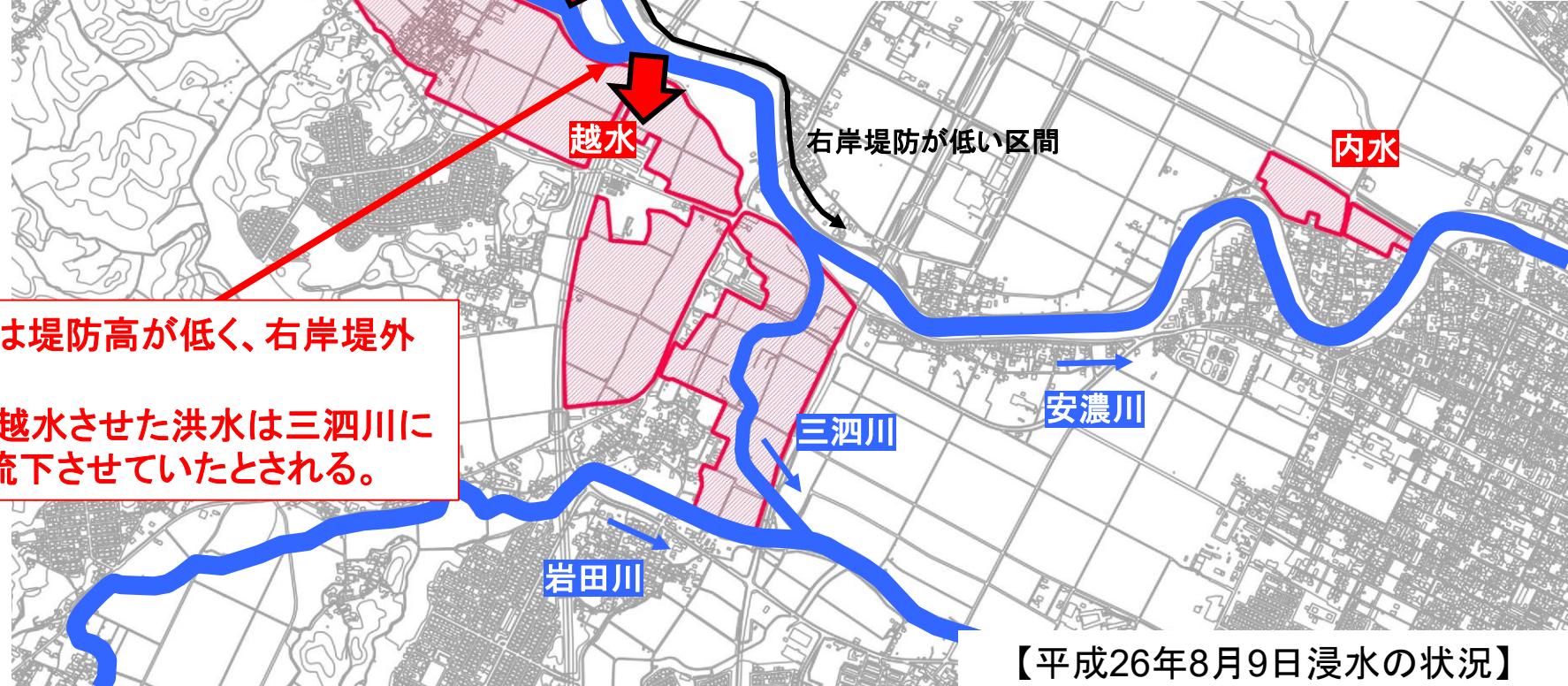


- 平成26年8月洪水において穴倉川合流点からの流入及び三泗川分流点～穴倉川合流点の安濃川右岸堤防より越水が確認されている。
- 当該地点は歴史的にも洪水流を堤外地へ流出させる働きをしていた箇所であり、現況の右岸堤防高も左岸堤防に対して低くなっている。



安濃川右岸堤・穴倉川左岸堤の接合部は堤防が低く霞堤の様相となっている。

穴倉川合流後右岸は堤防高が低く、右岸堤外地へ流出している。
歴史的には、ここで越水させた洪水は三泗川に集められ岩田川へ流下させていたとされる。



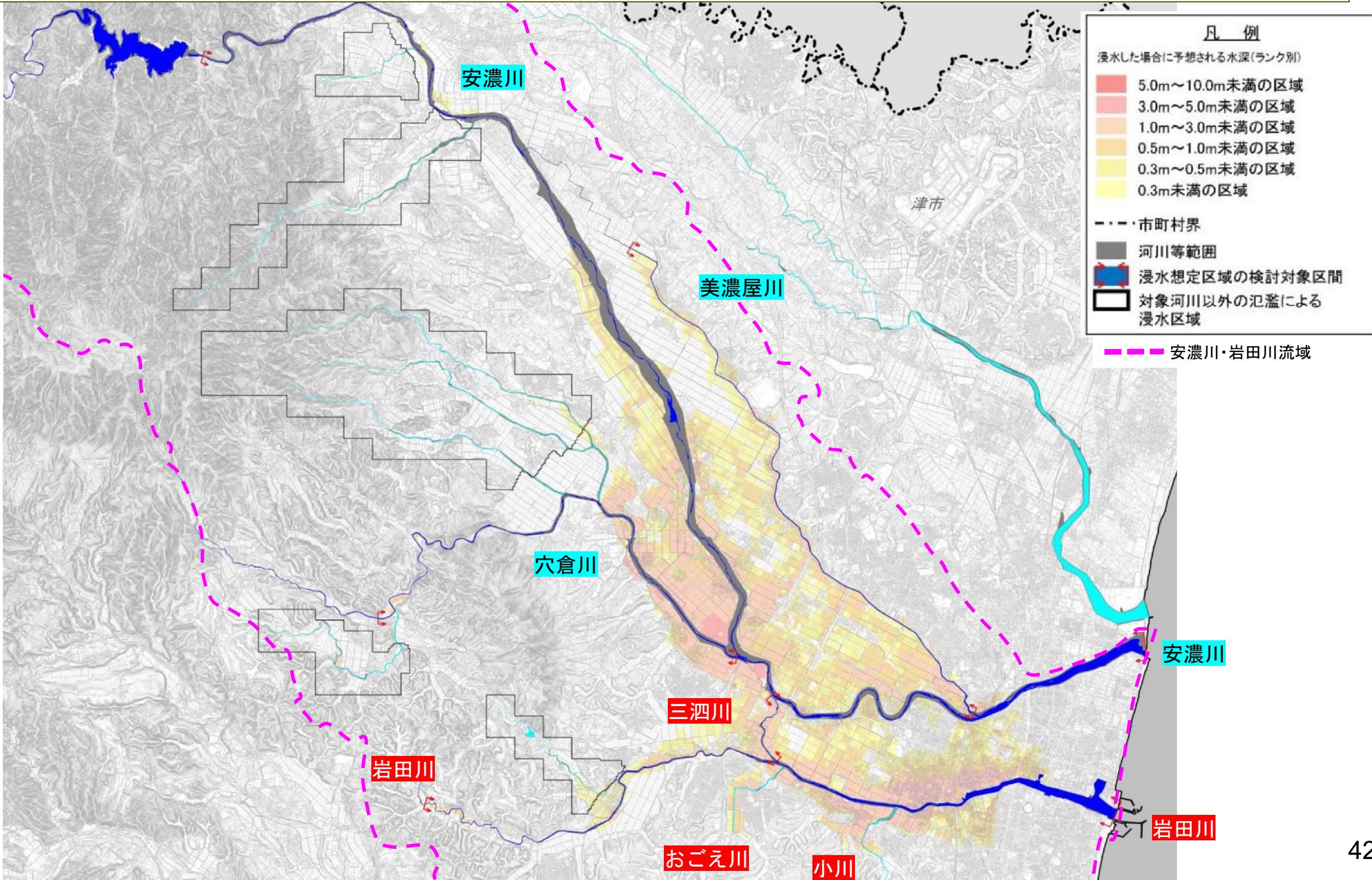
: 浸水範囲
← : 流入・越流地点

【平成26年8月9日浸水の状況】

■洪水浸水想定区域図（安濃川・岩田川）



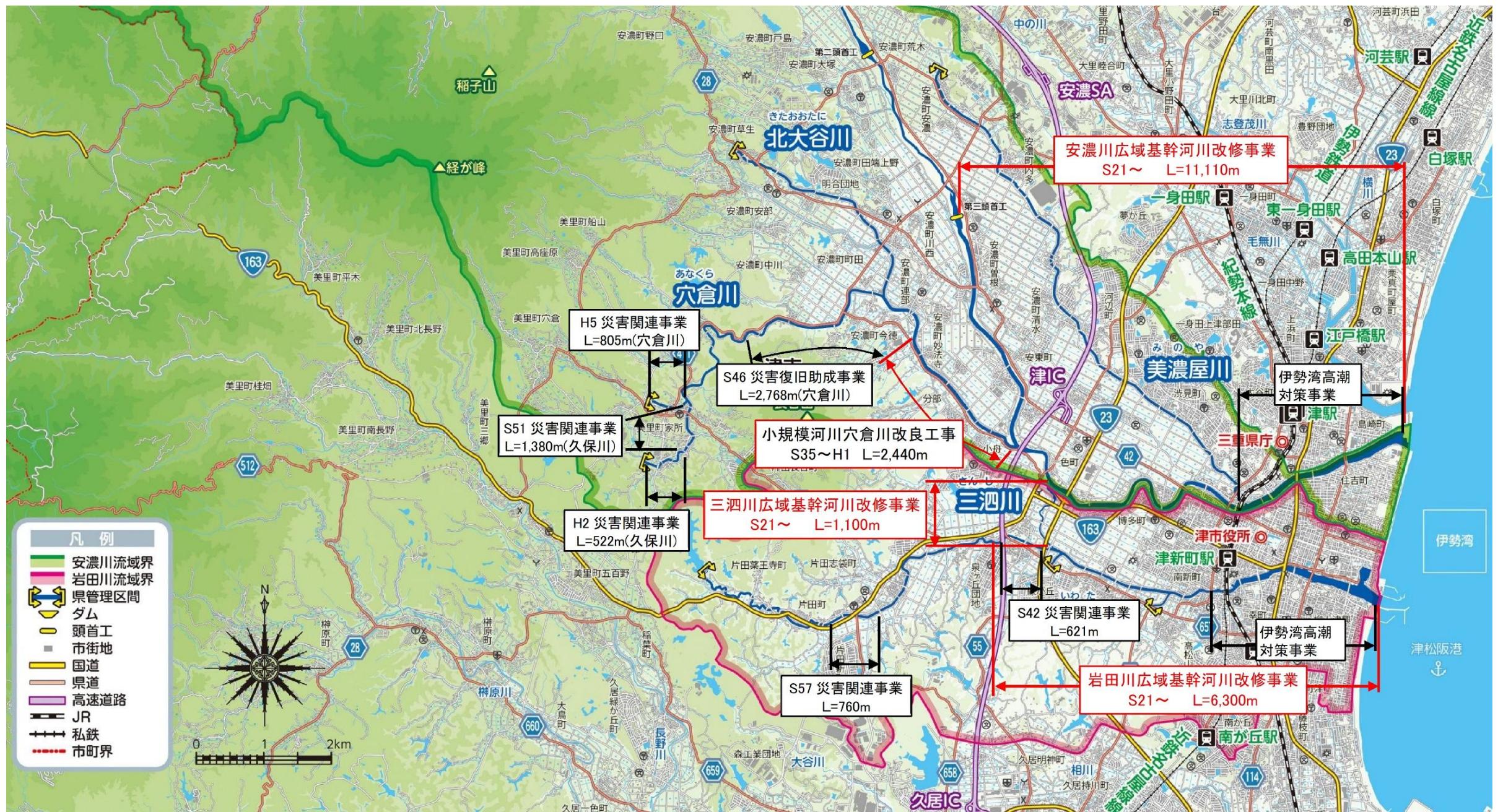
- 安濃川・岩田川における浸水想定区域(整備計画規模:年超過確率1/20)は下図のとおり
- 本川中流区間および支川において浸水が多く発生する想定。浸水想定区域には津市の市街地や集落が含まれている。



河川改修の経緯

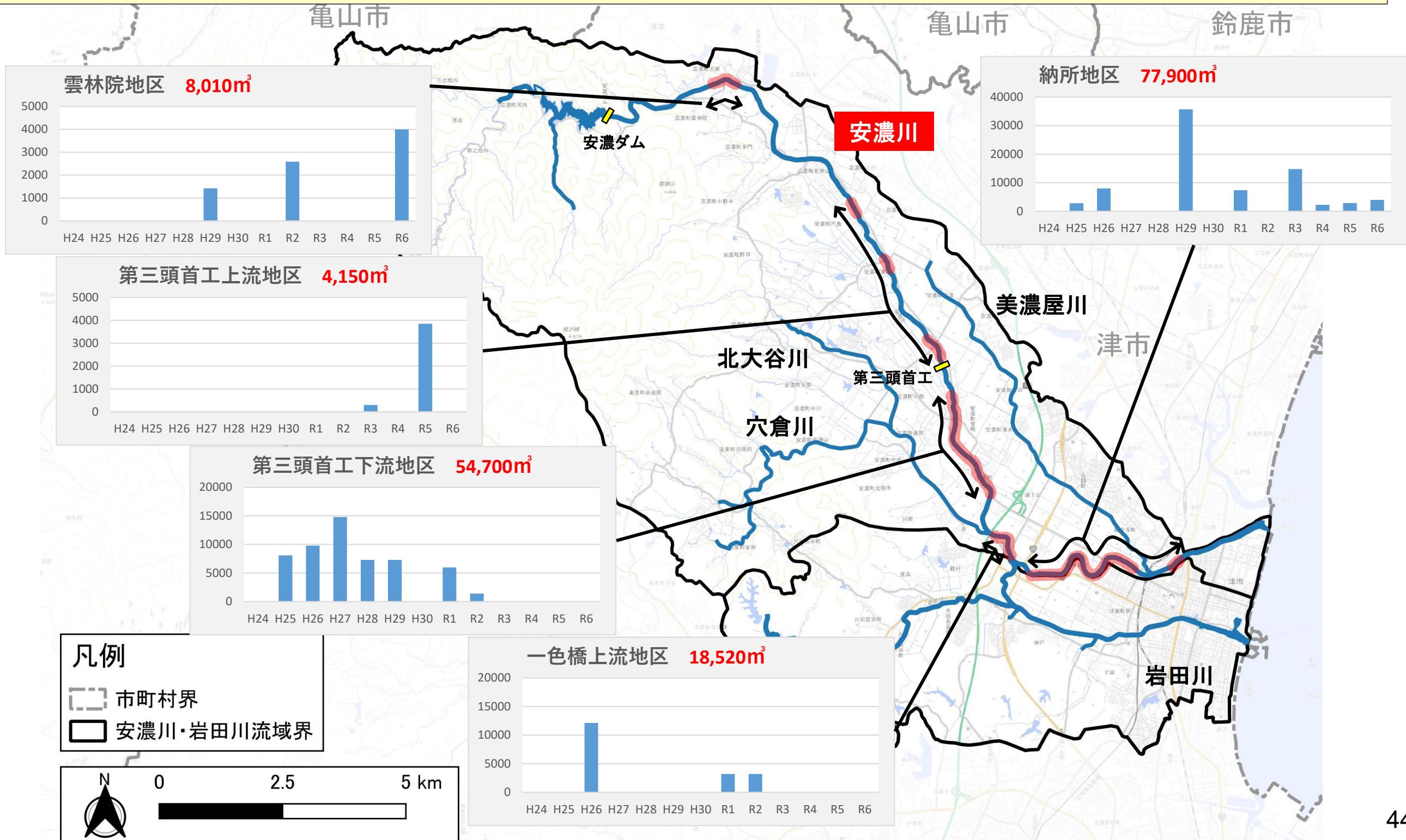


- 安濃川、岩田川は広域基幹河川改修事業により、昭和21年から河道改修に着手されている。
- 安濃川では河口から11.1kmの区間、岩田川では河口から6.3kmの区間が対象区間であり、三泗川も含め、現在も継続実施中。
- その他、伊勢湾高潮対策事業として、下流区間において防潮堤が整備されている。
- 支川では、災害関連事業による河道改修が実施されている。



■堆積土砂撤去の実績（安濃川）

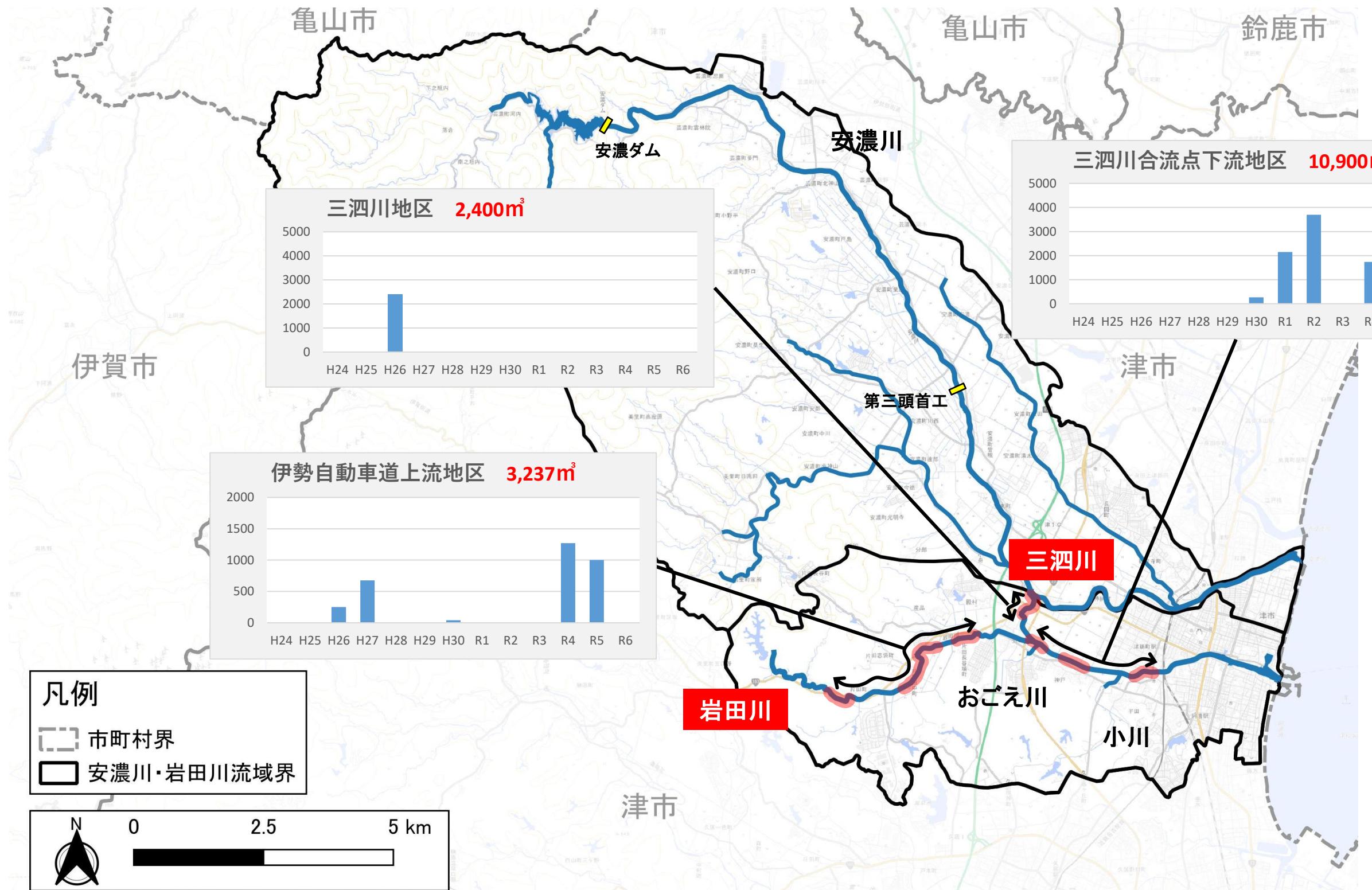
- 堆積土砂撤去(H24～R6実績)は、納所地区、第三頭首工下流部等、必要箇所において行っている。
- 支川美濃屋川、穴倉川においても堆積土砂の撤去が行われている。





■堆積土砂撤去の実績（岩田川）

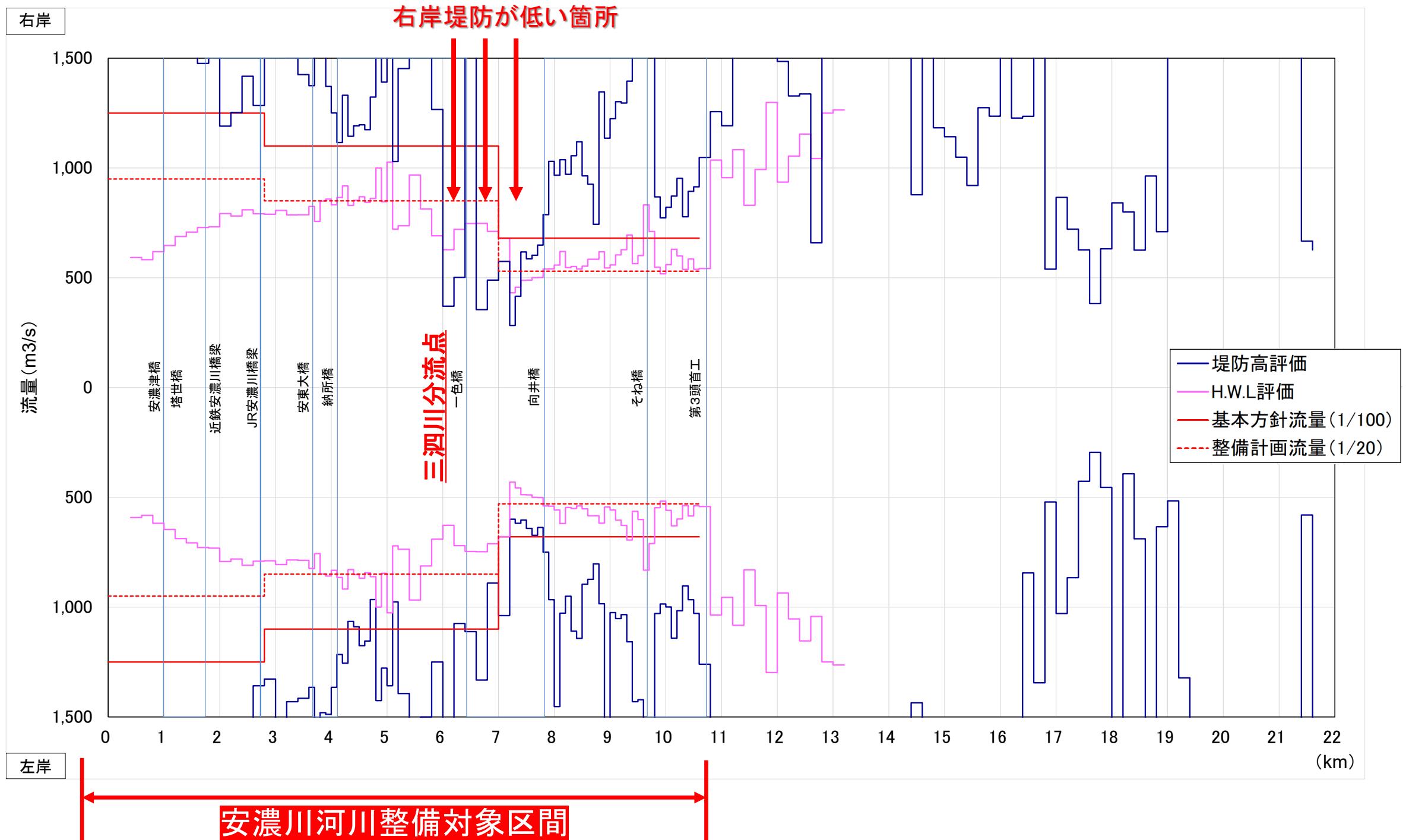
● 堆積土砂撤去(H24～R6実績)は、三泗川合流点下流地区や三泗川の未改修区間、伊勢自動車道より上流区間において土砂撤去が行われている。





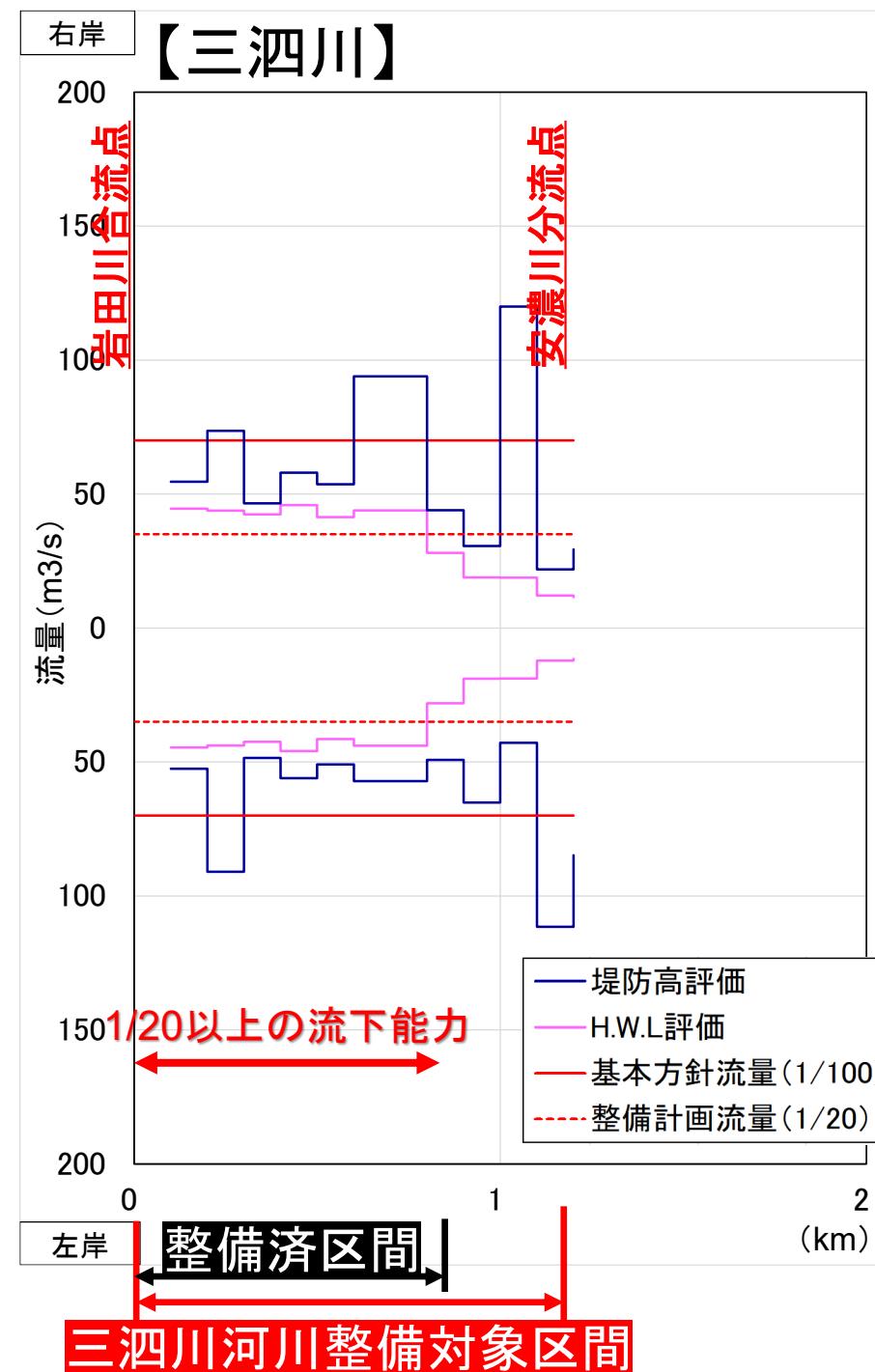
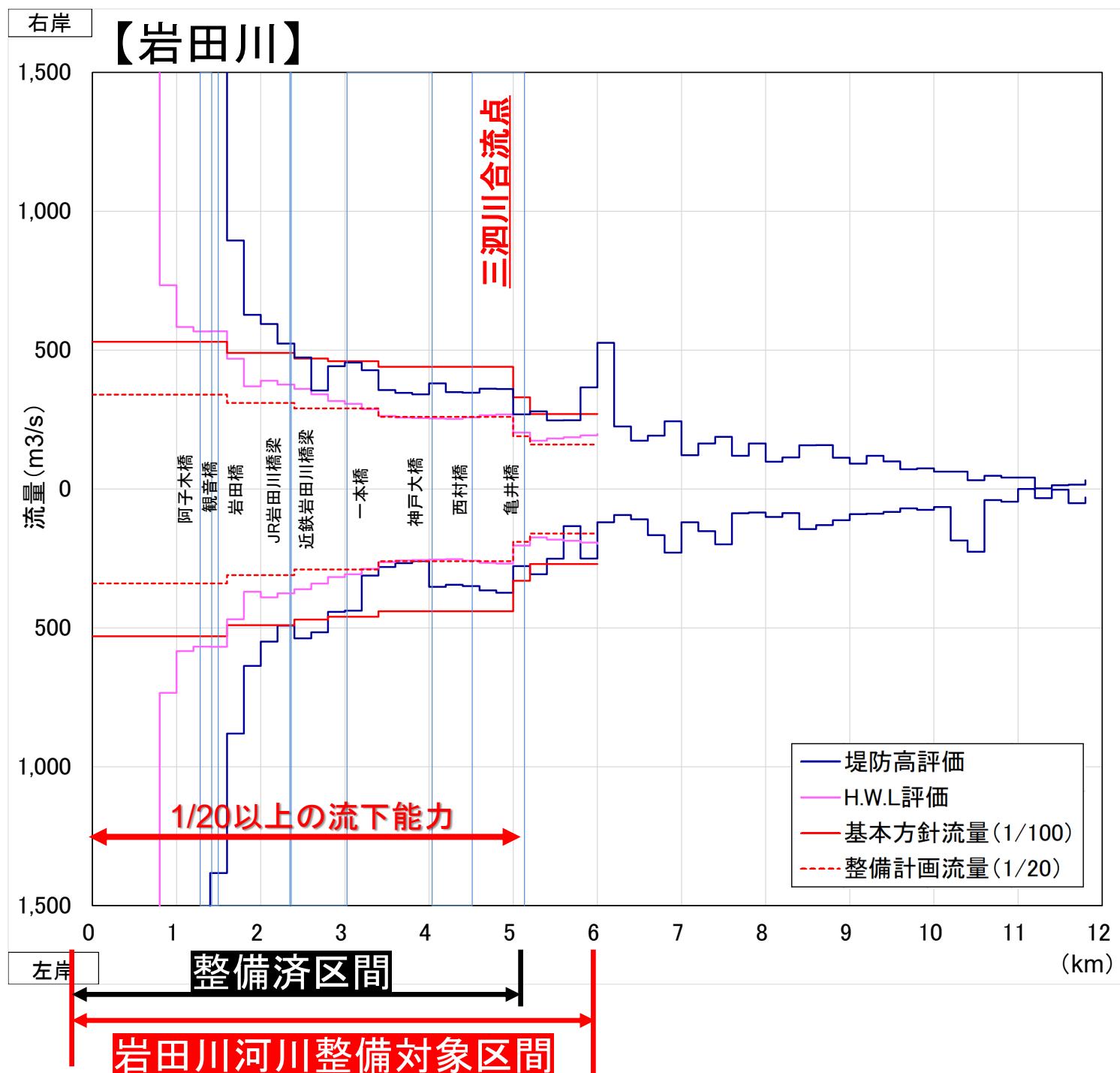
■現況流下能力（安濃川）

- 安濃川は、改修途上であり、計画高水位に対して流下能力が不足している。
- 下流部は高潮堤の整備が完了しており、堤防高に対して十分な流下能力を有している。
- 三泗川分流点から向井橋の区間では局所的に右岸堤防が低くなっており、霞堤の形状を有している。



■現況流下能力（岩田川・三泗川）

- 岩田川は、河口～三泗川合流点上流区間で河川改修が概ね完了、計画高水位に対して1/20確率以上の流下能力を有している。
- 三泗川は、中流部まで河川改修が完了、計画高水位に対して1/20確率以上の流下能力を有している。

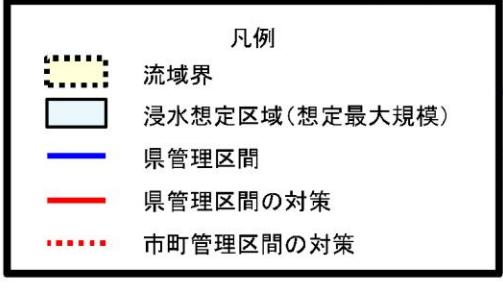


■安濃川・岩田川における流域治水

- 津圏域では、気候変動の影響により激甚化・頻繁化する水災害に備えるため、流域に関わるあらゆる関係者が協働して水災害対策を行う「流域治水」を推進するため、**津圏域二級水系流域治水プロジェクト**を策定している。

- : 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策
- : 被害対象を減少させるための対策
- : 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

- 広域的に行う対策
- 下水道（雨水排水）施設の整備、
 - 田んぼダムの普及・啓発、農業用ため池の洪水調整池転用、農業用ため池の活用
 - 治山ダムの整備
 - 森林整備、保全
- 立地適正化計画における防災指針の作成・検討
 - 土砂災害特別警戒区域外への住宅移転支援
- 水害リスク情報の空白域の解消（洪水・高潮・内水ハザードマップなどの策定・周知）
 - 土砂災害警戒区域等の指定・発表
 - 持続的な水災害教育の実施と伝承（防災教育の支援の実施）
 - 要配慮者利用施設における避難確保計画の作成促進と避難の実効性の確保
 - 防災訓練の実施（図上訓練、避難訓練）
 - 流域の水災害の早期把握に資する防災情報の提供（SNS・防災アプリを活用した防災情報の継続的な情報発信、危機管理型水位計・河川監視カメラの設置、防災気象情報の改善）
 - 広報誌等を活用した継続的な情報発信
 - 排水ポンプ車の配備・運用 等

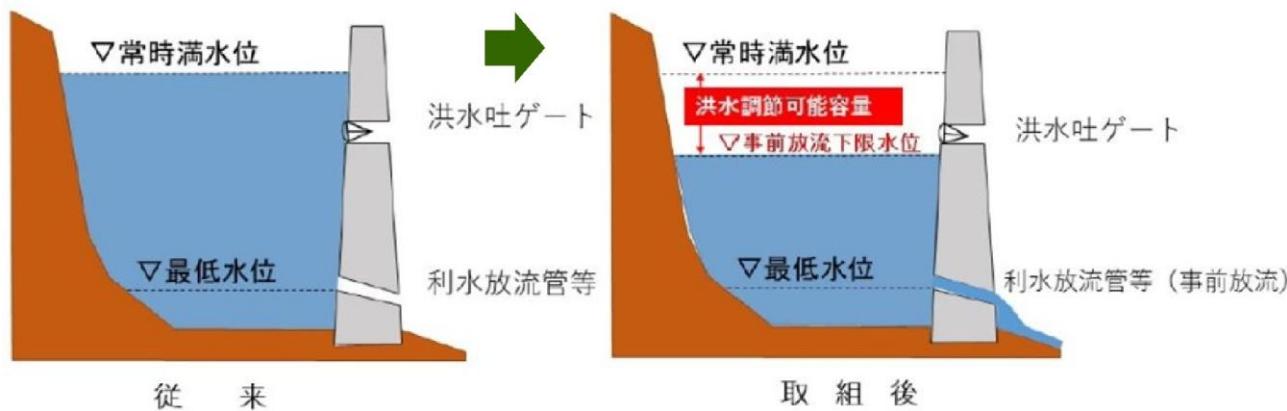


■安濃川・岩田川における流域治水

- 津圏域二級水系流域治水プロジェクトでは、津の市街地を守るため、河川改修による洪水氾濫対策や下水道施設の整備による内水氾濫対策、安濃ダムの事前放流やため池・農地等を活用した流出抑制を行うとともに、ソフト対策により浸水被害の低減を図ることとしている。

安濃ダム事前放流・堆砂対策

- 安濃ダムにおいて、気象庁から発信される降雨予測が基準降雨量以上である時に、洪水調節可能容量の範囲内で事前放流を実施。
- 堆砂土砂の貯水容量への影響を軽減するため、貯砂堰堤の設置、堆積土砂の除去を行う。



事前放流イメージ

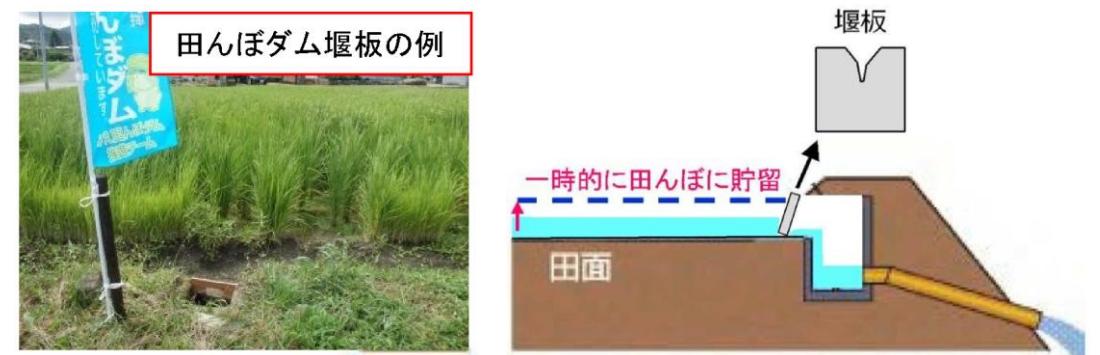
安濃ダム (安濃川水系)

堆砂除去 (東海農政局)



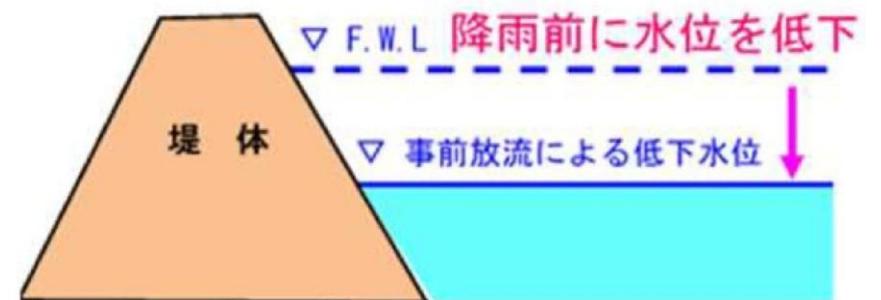
田んぼダムの普及・啓発

- 流域上流の田んぼにて、大雨時に洪水を一時的に貯留し排水を調整する堰板を設置することにより、排水路や河川への流出を抑制する。



農業用ため池の活用

- 大雨が予想される際にあらかじめ水位を下げることによって洪水調節機能を発揮する。
- ため池堤体の耐震化を行い、農業用ため池が有する洪水調節機能強化を図る。



【安濃川】

項目	内容
現状	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 安濃川は整備計画に基づいた改修の途上であり、計画高水流量に対する流下能力が不足する区間が存在している。 ➤ 第三頭首工より上流区間は、堤防高が高く十分な流下能力を有している。 ➤ 三泗川による洪水時の分派の影響を考慮し、岩田川及び三泗川の整備を先行して行っている。 ➤ 伊勢湾高潮対策事業で整備された河口部の堤防が老朽化している。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 流下能力不足区間の解消 ➤ 気候変動を踏まえた治水計画の見直し ➤ 堤防老朽化への対応

【岩田川・三泗川】

項目	内容
現状	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 河口～伊勢自動車道下流区間（三泗川合流点まで）において整備計画による河川改修が完了しており、1/20確率以上の流下能力を有している。 ➤ 三泗川合流点から上流区間は未改修の区間があり、計画高水流量に対して流下能力が不足する区間が存在する。 ➤ 伊勢湾高潮対策事業で整備された河口部の堤防が老朽化している。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 流下能力不足区間の解消 ➤ 気候変動を踏まえた治水計画の見直し ➤ 堤防老朽化への対応



目次

1. 流域の概要
2. 現在の計画
3. 気候変動への対応方針
4. 河川の現況
5. 治水の現状と課題
- 6. 利水の現状と課題**
7. 環境の現状と課題
8. 今後の進め方

■ 水利用の状況（水利権）（安濃川）



- 安濃川水系では許可水利が4件(8箇所)、慣行水利が9件あり、美濃屋川1箇所を除いて全てかんがいに利用され、水利対象面積は約4,500ha(志登茂川-岩田川含む)となっている。
- 安濃川流域は中勢(ちゅうせい)用水の受益区域であり、農業用水の安定供給が図られている。

【安濃川の水利権状況】

区分	河川名	施設・井堰名	場所	使用目的	最大取水量 (m³/s)	水利対象 (ha)	
許可	安濃川	第一頭首工	左岸 津市芸濃町北神山字沢	かんがい	0.70	624.9	
		第二頭首工	左岸 津市安濃町荒木字西川原	かんがい	1.16		
		安東集水暗渠	左岸 津市安東町字小市坊	かんがい	0.11		
		三泗頭首工	右岸 津市小舟字八条	かんがい	0.36		
	安濃川 志登茂川	安濃ダム	津市芸濃町河内字岩坂	かんがい	8.82	水田 2841 畑 256.4	
		第三頭首工	津市安濃町内多字上河原	かんがい	1.68		
	安濃川合計			2件		12.83m³/s	3722.5ha
	穴倉川	小舟井堰	(右岸)津市安濃町今徳堂の下	かんがい	0.40	89.3	
	美濃屋川	ポンプ有孔管	右岸 津市観音寺町南川原	工業用水	0.01		
	支川合計			2件		0.410m³/s	89.3ha
安濃川水系(許可水利) 合計			4件		13.240m³/s	3811.8ha	
慣行	安濃川合計			0件		0.0ha	
	穴倉川合計			3件		0.242	156.0ha
	美濃屋川合計			3件		-	159.0ha
	北大谷川合計			3件		-	347.0ha
	安濃川水系(慣行水利) 合計			9件		0.242m³/s	662.0ha
			許可+慣行	13件		13.482m³/s	4473.8ha



■ 水利用の状況（水利権）（岩田川）

- 岩田川水系では許可水利が2件、慣行水利が12件あり、いずれもかんがいに利用され、水利対象面積は約136haとなっている。
- 岩田川左岸流域は中勢用水の受益区域であり、農業用水の安定供給が図られている。

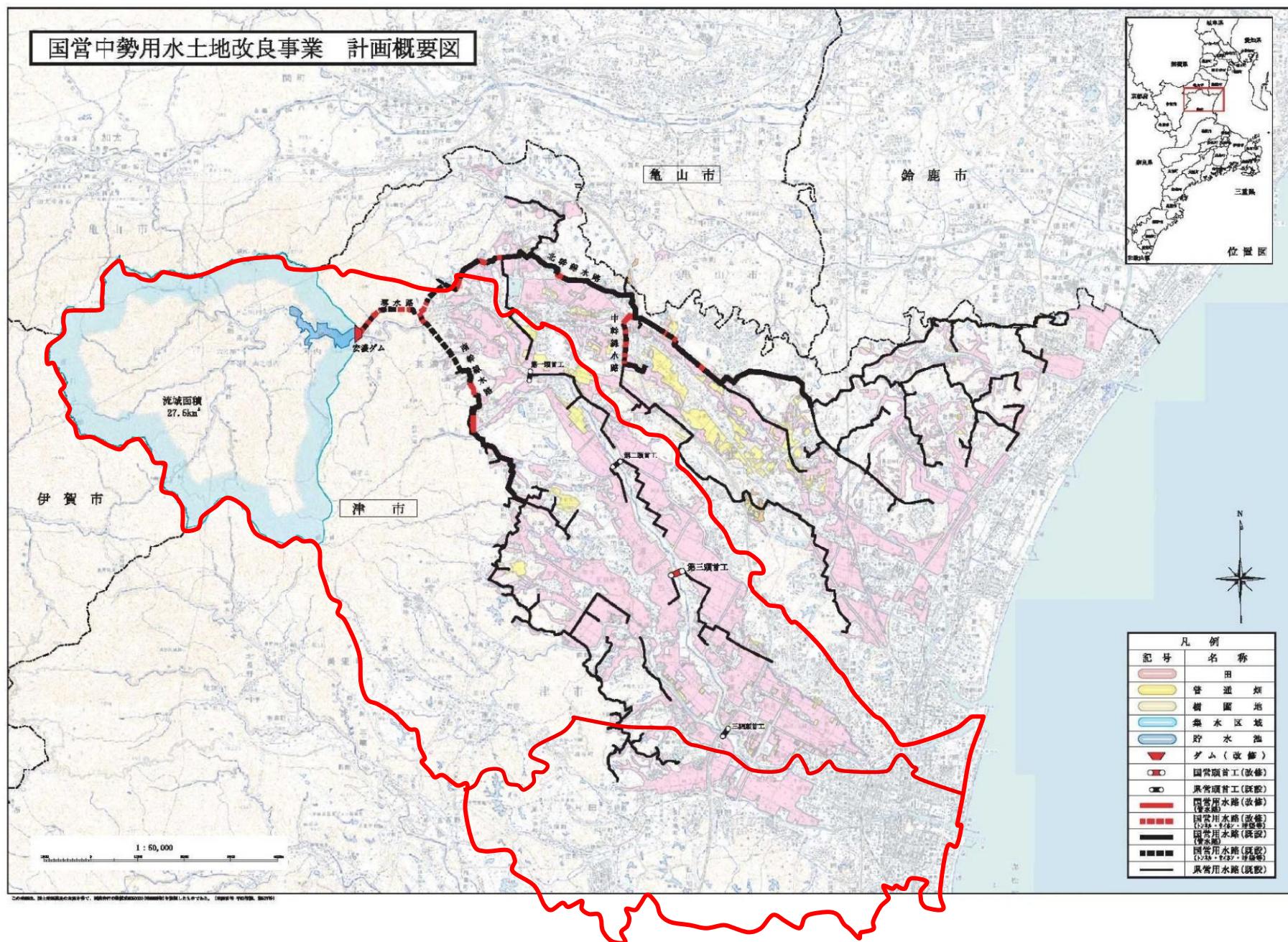
【岩田川の水利用状況】

区分	河川名	施設・井堰名	場所	使用目的	最大取水量 (m ³ /s)	水利対象 (ha)
許可	岩田川	殿村揚水機	津市片田志袋町字中反	かんがい	0.028	21.6
	岩田川	田中頭首工 (堰上げ自然取水)	津市片田田中町字池下	かんがい	0.125	19.9
		田中揚水機 (補給水)	津市片田田中町字楠木			
		岩田川水系 合計		2件	0.153m ³ /s	41.5ha
慣行			岩田川合計	10件	-	93.3ha
			三泗川合計	1件	-	18.0ha
			小川合計	1件	-	1.0ha
			岩田川水系 合計	12件	-	94.3ha
			許可+慣行	14件	0.153m ³ /s	135.8ha

■ 水利用の状況（中勢用水）

- 中勢用水は中勢地域の農業生産性の向上を目的に昭和47年に着工、安濃川の22ヶ所の井堰を4ヶ所の頭首工に整理統合するとともに、安濃ダムを建設し、管水路97kmを敷設した。
- 事業は平成15年に完成し、中勢地域の約3,100haの農地へ用水を供給している。

【中勢用水の受益区域】

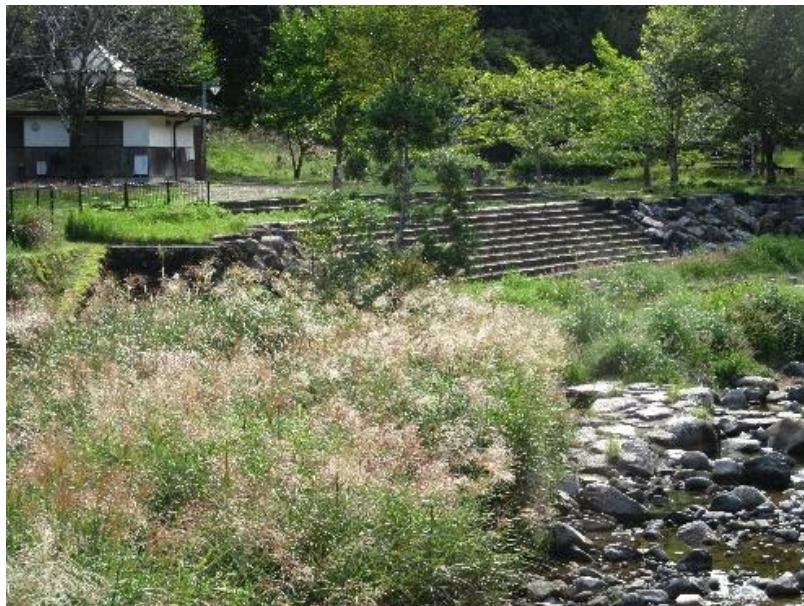


安濃ダム
出典：三重県安濃ダム管理室HP

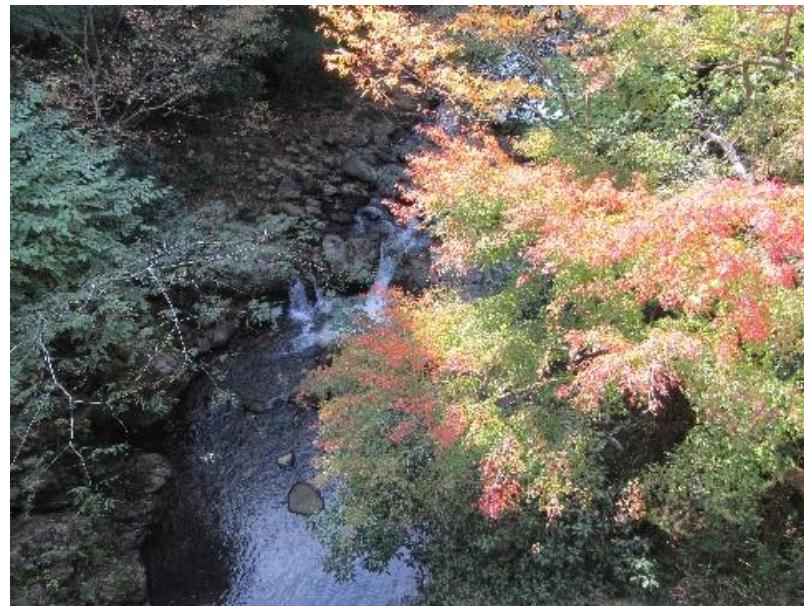
中勢用水土地改良事業 計画概要図
出典：農林水産省東海農政局HP

■ 水利用の状況（空間利用）

- 安濃川では、上流のダム湖（錫杖湖^{（しゃくじょうこ）}）周辺にレクリエーション施設があるほか、ダム下流には「河内溪谷^{（こうちけいこく）}」があり、紅葉シーズンには多くの観光客が訪れる。
- 安濃川河口部では、干潟が形成されることから水鳥の渡来地となっており、バードウォッチングの場となっているほか、潮干狩りや釣りで訪れる人もみられる。
- 岩田川では、川幅が狭く急勾配のコンクリート護岸の区間が多いこともあり、河川空間の利用は殆どない。



落合（おちあい）の郷（安濃川上流）



河内溪谷（安濃川上流）



河口干潟（安濃川感潮区間）

■利水の現状と課題まとめ

【安濃川】

項目	内容
現状	<ul style="list-style-type: none">➤ 許可水利4件、慣行水利9件があり、安濃ダムや頭首工の運用等により、約4500haに及ぶ耕地のかんがい用水として利用されている。➤ 上流ではダム湖（錫杖湖）周辺のレクリエーション施設や「河内溪谷」などの観光資源があるほか、河口部はバードウォッチングや潮干狩りに利用されている。
課題	<ul style="list-style-type: none">➤ 良好な水環境の維持・改善と、有効かつ合理的な水利用の促進➤ 地域住民等との協働による河川整備や管理等の取り組み

【岩田川】

項目	内容
現状	<ul style="list-style-type: none">➤ 許可水利2件、慣行水利12件があり、約136haの耕地のかんがい用水として利用されている。➤ 岩田川は川幅が狭く急勾配のコンクリート護岸の区間が多いこともあり、河川空間の利用は殆どない。
課題	<ul style="list-style-type: none">➤ 良好な水環境の維持・改善と、有効かつ合理的な水利用の促進➤ 水辺へのアクセスが困難な状況にあり、スポット的な親水施設の設置➤ 地域住民等との協働による河川整備や管理等の取り組み



目次

1. 流域の概要
2. 現在の計画
3. 気候変動への対応方針
4. 河川の現況
5. 治水の現状と課題
6. 利水の現状と課題
- 7. 環境の現状と課題**
8. 今後の進め方

環境調査の概要

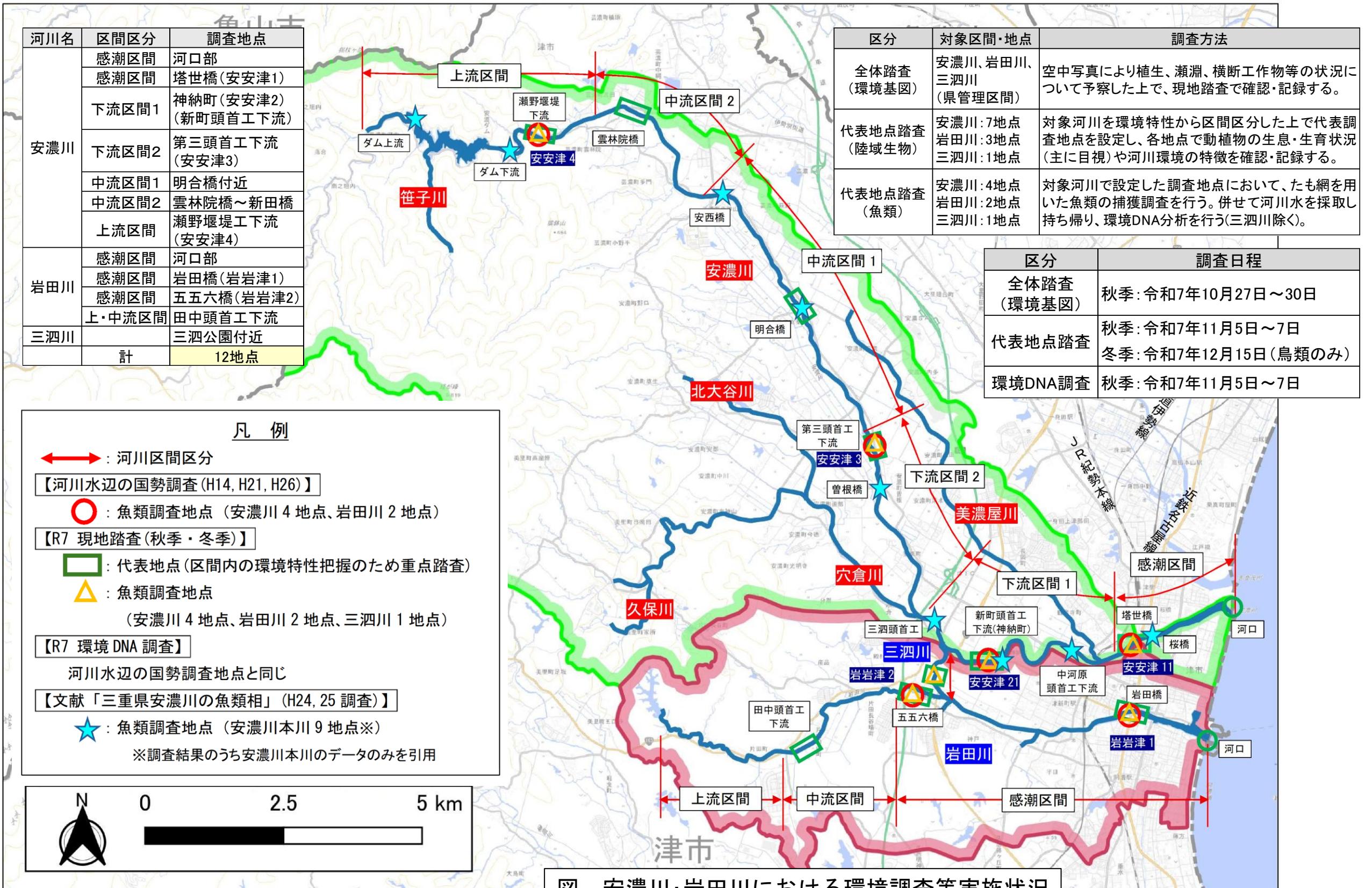


図 安濃川・岩田川における環境調査等実施状況

河川環境（安濃川：概況）河口～下流域



□感潮区間：緩やかな流れで河床は砂泥。河口干潟が広がり、水際にはヨシ群落。



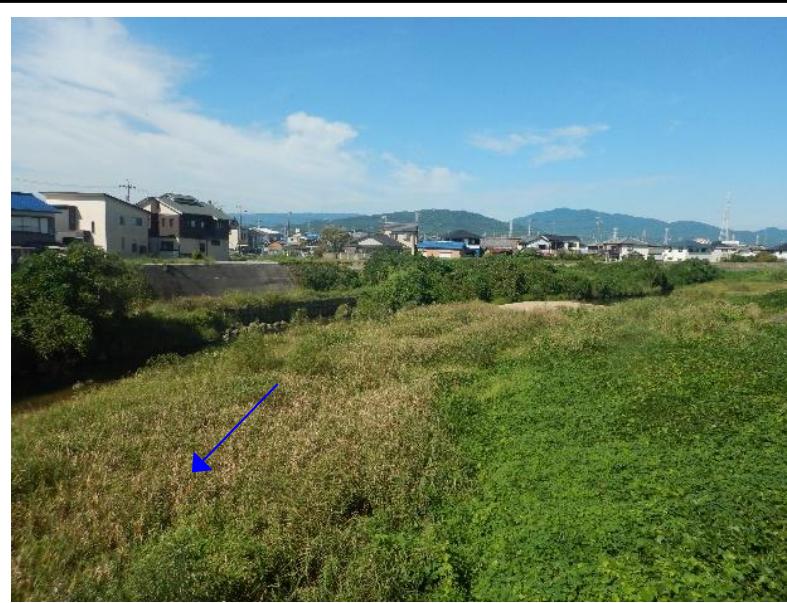
河口部(干潮時)



河口部(満潮時)

感潮区間の状況

□下流区間1：緩やかな流れで河床は砂～中礫。河道内にツルヨシ、クズ、オギ等。



納所橋から上流方向



納所橋から下流方向

下流区間1の状況

□下流区間2：緩やかに滞筋が蛇行。河床は中礫～粗礫。植生はツルヨシ、竹林等。



曾根橋から上流方向



曾根橋から下流方向

下流区間2の状況

河川環境（安濃川：概況）中流域～上流域



□中流区間1:川幅広く滞筋が蛇行。河床は中礫～粗礫。植生はツルヨシ、竹林等。



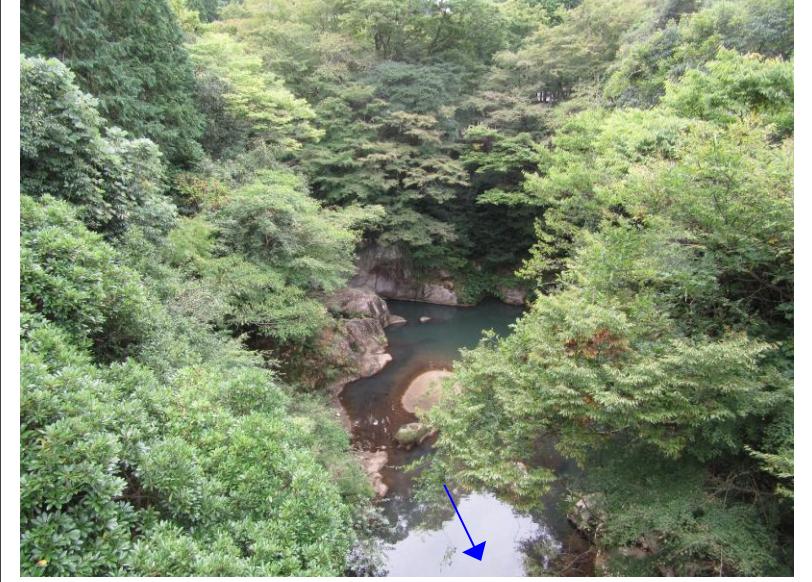
明合橋から上流方向

□中流区間2:川幅狭く蛇行少ない。河床は中礫～粗石。植生はツルヨシ、クズ等。



雲林院橋から上流方向

□上流区間:山付き区間で瀬淵が連続。河床は石～岩盤の溪流。河畔林。



瀬野橋から上流方向



明合橋から下流方向

中流区間2の状況



雲林院橋から下流方向

中流区間3の状況



瀬野橋から下流方向

上流区間の状況

河川環境（安濃川：魚類）

- 現地踏査・環境DNA調査・河川水辺の国勢調査等で、62種の魚類が確認された。
- 重要種はスナヤツメ、ニホンウナギ、ヤリタナゴ、アブラボテ、ドジョウ、ホトケドジョウ、アカザ、ミナミメダカ、ウツセミカジカ、アシシロハゼ、マサゴハゼ、シマヒレヨシノボリの12種を確認。
- 特定外来生物はカダヤシ、ブルーギル、オオクチバスの3種を確認。

重要種（魚類）



スナヤツメ(下流)



ニホンウナギ(感潮・下流)



ヤリタナゴ(下流)



アブラボテ(下流)



ドジョウ(下・中流)



ホトケドジョウ(下流)



アカザ(下・中・上流)



ミナミメダカ(感潮・下流)



※画像出典:「三重県安濃川の魚類相」

ウツセミカジカ(下流)



アシシロハゼ(感潮)



マサゴハゼ(感潮)



シマヒレヨシノボリ(下流)

特定外来生物（魚類）



カダヤシ(感潮・下流)



ブルーギル(感潮・下流)



オオクチバス(全区間)

河川環境（安濃川：その他生物）

- 現地踏査で180種の動植物が確認された(魚類を除く)。
- 重要種は、ミヤコドリ、ダイシャクシギ、ミュビシギ、シロチドリ、イカルチドリ、ハイタカ、キイロヤマトンボ、ミヤマアカネ、アイアシ、シロネ等、計19種を確認。
- 特定外来生物はアメリカザリガニ、ソウシチョウ、ウシガエル、アライグマの計4種を確認。

主な重要種(魚類以外)



ミヤコドリ(河口)



ダイシャクシギ(河口)



ミュビシギ(河口)



シロチドリ(河口)



イカルチドリ(感潮域・中流)



ハイタカ(下・中・上流)



キイロヤマトンボ(下流)



ミヤマアカネ(中流)

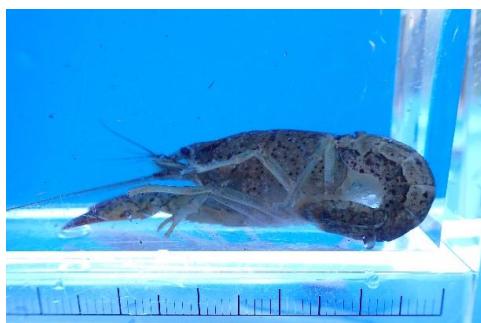


アイアシ(河口)



シロネ(下流)

特定外来生物(魚類以外)



アメリカザリガニ(下流)



ソウシチョウ(上流)



ウシガエル(下流)



アライグマ(全区間)

※画像出典:環境省資料

河川環境（岩田川：概況）河口～中流域



□**感潮区間**：流れは緩やかで河床は砂泥。護岸はコンクリートで中洲や寄り洲はほとんどみられない。植生は全体的に少ないが、一部水際にヨシ、護岸にチガヤ、シナダレスズメガヤ等。

□**中流区間**：川幅狭く直線的な河道。河床は細礫～粗石。植生はツルヨシ、チガヤ等。



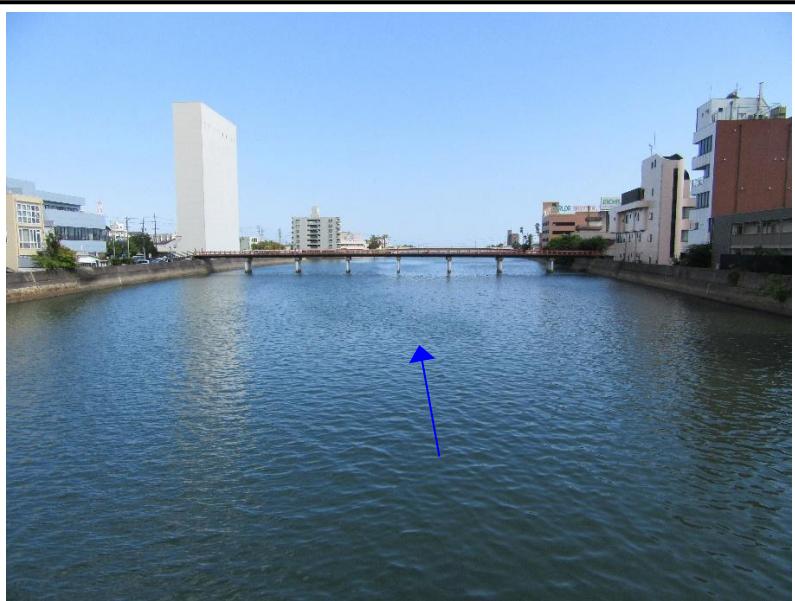
岩田橋から上流方向



五五六橋から上流方向



田中頭首工付近から上流方向



岩田橋から下流方向



五五六橋から下流方向



田中頭首工付近から下流方向

感潮区間の状況

感潮区間の状況

中流区間の状況

河川環境（岩田川：概況）上流域・三泗川



□**上流区間**:コンクリート護岸で流れは単調。河床は細礫～粗石。植生は殆どない。



11.1k付近から上流方向



11.1k付近から下流方向

上流区間の状況

□**三泗川**:川幅狭く流れは緩やか。河床は砂～粗礫。植生は水際や中洲ではヨシ、ツルヨシ、法面等はクズ、シナダレスズメガヤ、セイタカアワダチソウ等。



下三泗川橋から上流方向



下三泗川橋から下流方向

三泗川・岩田川合流点の状況



橋から上流方向



橋から下流方向

三泗川湿地付近の状況

河川環境（岩田川：魚類）

- 現地踏査・環境DNA調査・河川水辺の国勢調査で、45種の魚類が確認された。
- 重要種はニホンウナギ、ヤリタナゴ、ドジョウ、ミナミメダカ、カワアナゴ、ヒモハゼ、アシシロハゼ、マサゴハゼ、シマヒレヨシノボリ、エドハゼの10種を確認。
- 特定外来生物はカダヤシ、ブルーギル、オオクチバスの3種を確認。

重要種（魚類）



ニホンウナギ(感潮)



ヤリタナゴ(感潮)



ドジョウ(感潮)



ミナミメダカ(感潮)



カワアナゴ(感潮)



ヒモハゼ(感潮)



アシシロハゼ(感潮)



マサゴハゼ(感潮)



シマヒレヨシノボリ(感潮)



エドハゼ(感潮)

特定外来生物（魚類）



カダヤシ(感潮)



ブルーギル(感潮)



オオクチバス(感潮)

河川環境（岩田川：その他生物）

- 現地踏査で96種の動植物が確認された(魚類を除く)。
- 重要種は、ミサゴ、ハイタカ、オオタカ、アキアカネ、ミヤマアカネ、ニホンイシガメの計6種を確認。
- 特定外来生物はウシガエル、ミシシippアカミミガメ、アライグマ、オオキンケイギクの計4種を確認。

主な重要種(魚類以外)



ミサゴ(感潮域・中流)



ハイタカ(感潮域)



オオタカ(感潮域)
注)画像は流域外(県内)の個体



アキアカネ(感潮域・中流)



ミヤマアカネ(中流)



ニホンイシガメ(中流)

特定外来生物(魚類以外)

※画像出典:環境省資料



ウシガエル(感潮域)



ミシシippアカミミガメ(感潮域)



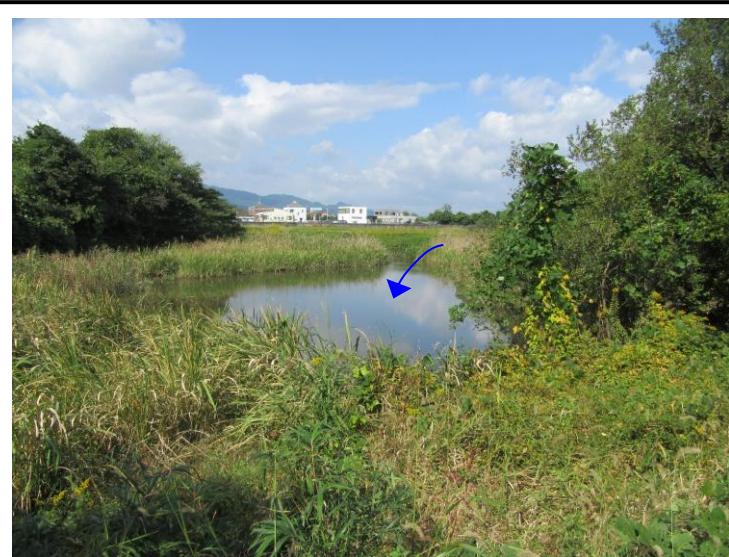
アライグマ(感潮域)



オオキンケイギク(中流)

河川環境（三泗川：概況、生物）

- 中流付近で堰上げされ、湛水域(湿地)を形成。左岸側には小規模な池が存在。
- 現地踏査の結果、**魚類を含む61種の動植物**が確認された。
- 重要種は、**ニホンウナギ、アキアカネの2種**を確認。
- 特定外来生物は、**アメリカザリガニ、ミシシippアカミミガメ、アライグマ**の計3種を確認。



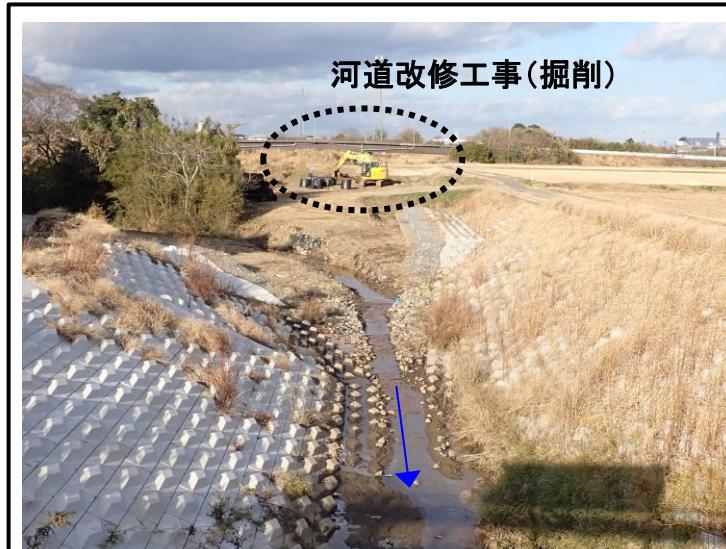
湿地(湛水域)付近



左岸側休耕地内の池



湿地(湛水域)上流の河道



河道改修工事(掘削)

河道改修実施状況

重要種



ニホンウナギ(三泗川)



アキアカネ(三泗川)

特定外来生物



アメリカザリガニ(三泗川)



ミシシippアカミミガメ(三泗川)

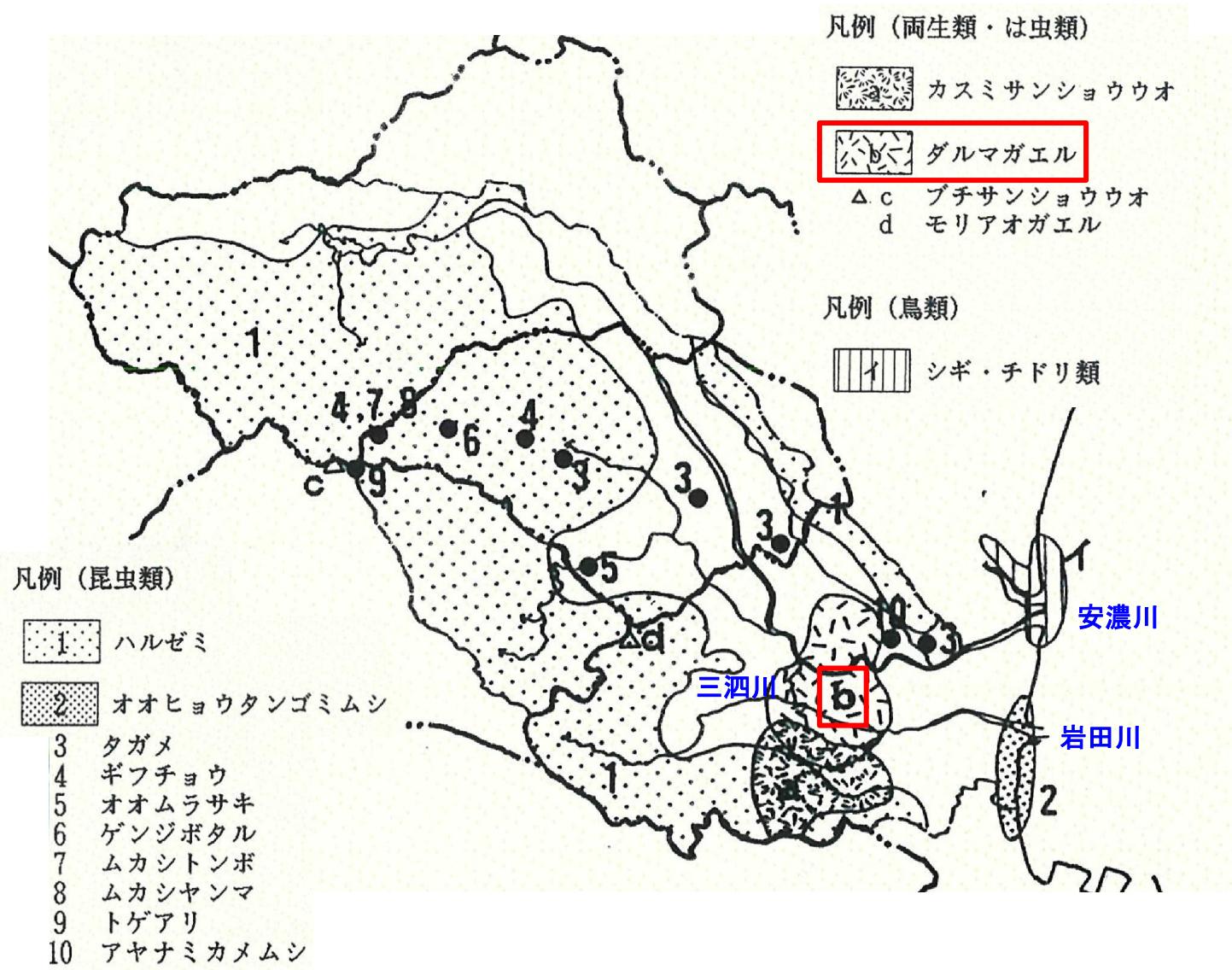


アライグマ(三泗川)

※画像出典:環境省資料

河川環境（三泗川：概況、生物）

- 既往文献※によると、三泗川周辺は重要種である**ダルマガエル(ナゴヤダルマガエル)**の分布域とされている。(※第2回自然環境保全基礎調査(昭和53年度、環境庁))
- 現行整備計画では、ダルマガエルの生息域にある**三泗川の湿地**について「**豊富な自然環境の保全に努める**」とし、現在、**湿地環境の保全に配慮した整備を進めている**。



ダルマガエル(ナゴヤダルマガエル)



画像出典:「レッドデータブックあいち2020」(愛知県)

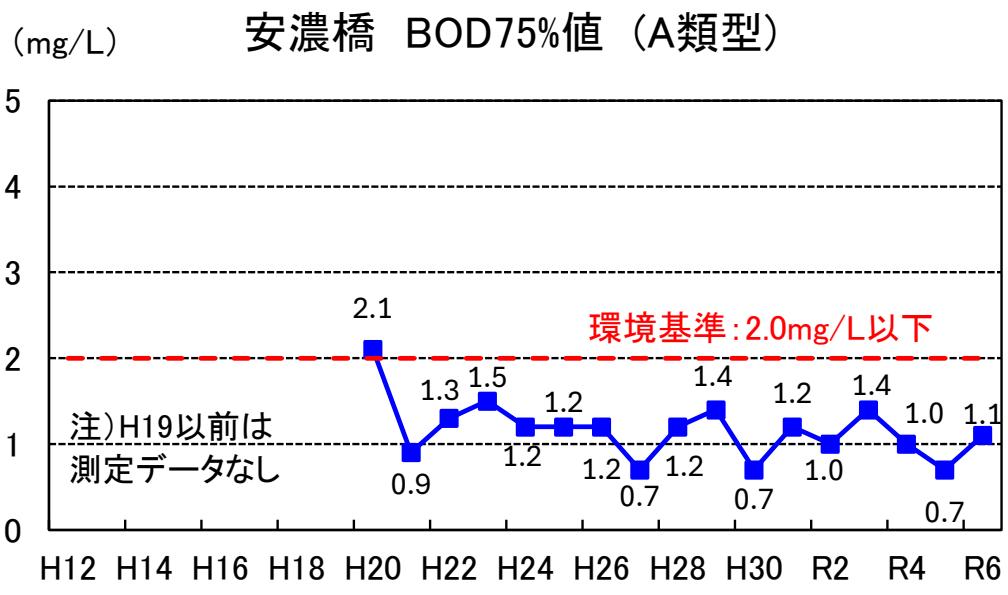
区分	内容
重要種 ランク	環境省レッドリスト:EN(絶滅危惧 I B類) 三重県レッドリスト:EN(絶滅危惧 I B類)
生態 特性	本種は水辺から離れない傾向が強く、一生を通じて低湿地で生活する。繁殖地は主に水田で、浅い池、沼など浅い止水で産卵する。繁殖期は比較的長く、5月から7月に及ぶ。
減少 要因	近年の乾田化や圃場整備、都市化による埋め立て等で産卵場や生息場が減少。

参考:「三重県レッドデータブック2015」(三重県)
「レッドデータブックあいち2020」(愛知県)

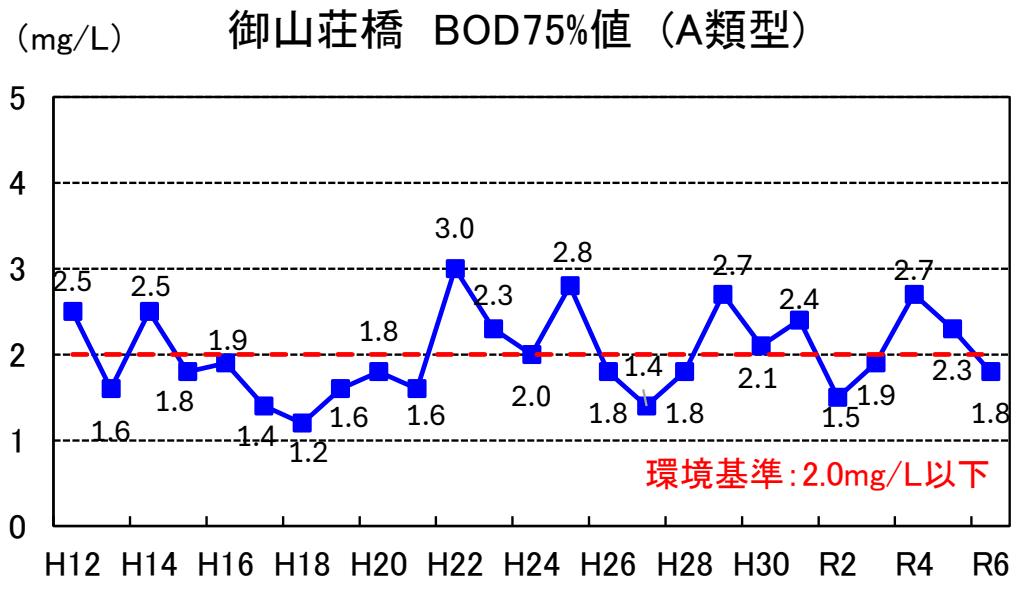
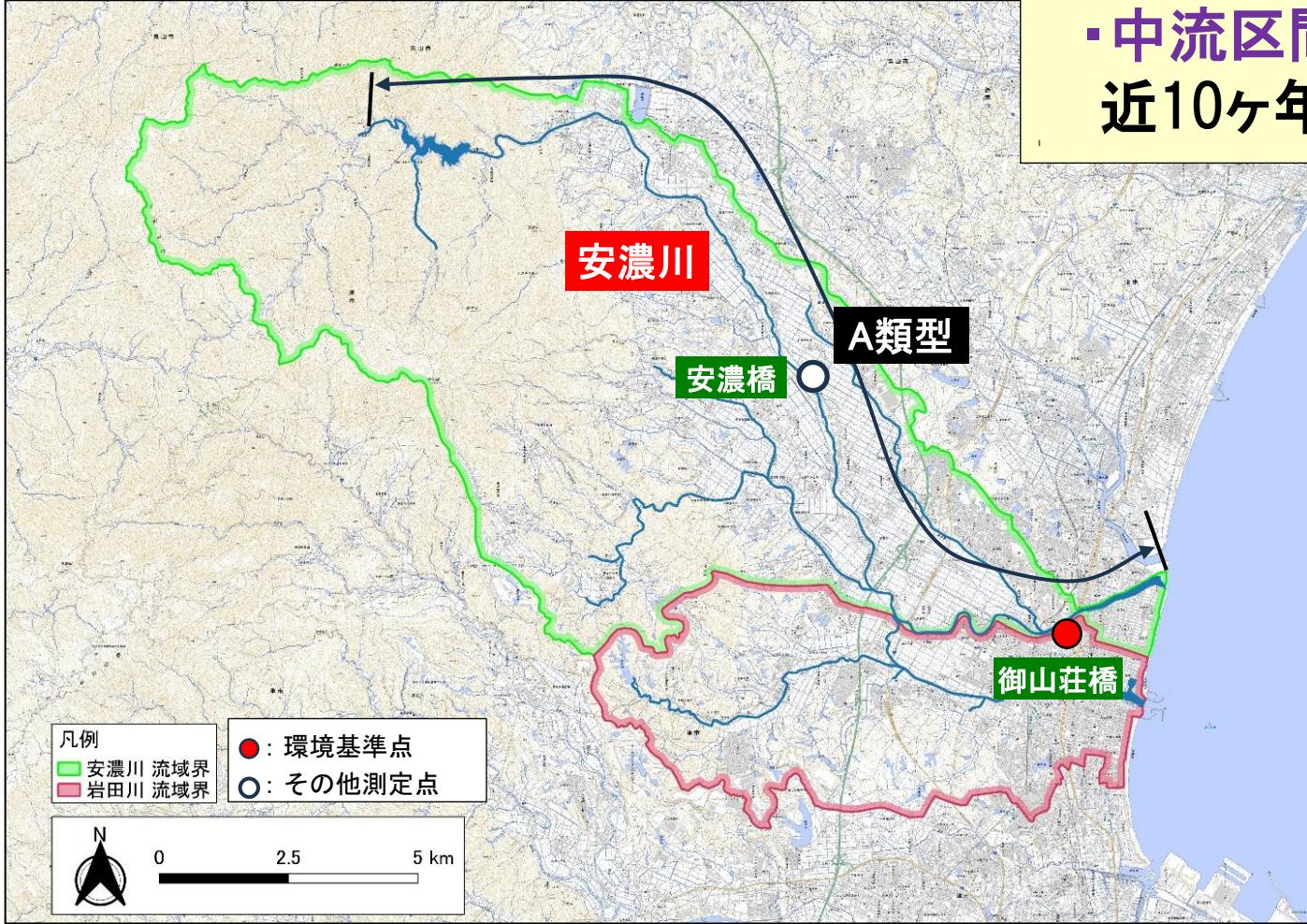
安濃川・岩田川周辺における第1～3回自然環境保全基礎調査の概要

図面引用:「平成6年度 安濃川岩田川河川環境管理基本計画策定業務報告書」

河川水質の推移（安濃川）

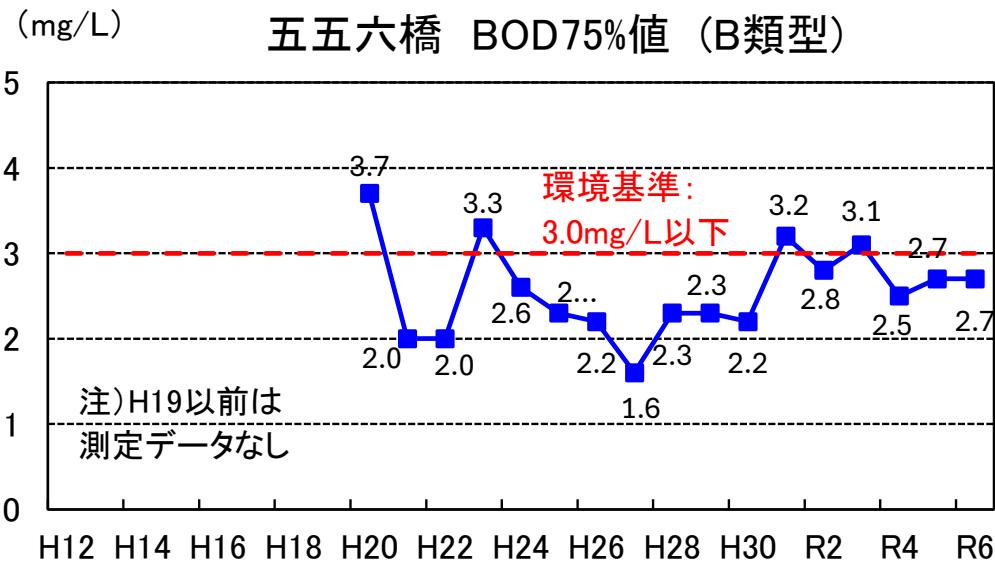


- 水質調査の実施状況
 - ・安濃川では、御山荘橋と安濃橋の2地点において定期的な水質調査が行われている。
- 環境基準の達成状況
 - ・安濃川は全区間が環境基準A類型に指定。
 - ・BOD75%値について下流区間の御山荘橋では経年的に1～3mg/Lで推移し、環境基準(2mg/L)を超過する年度もあり、横這い傾向。
 - ・中流区間の安濃橋では概ね1～2mg/Lで推移し、近10ヶ年は環境基準を満足している。



安濃川の類型指定および水質基準点位置図

河川水質の推移（岩田川）

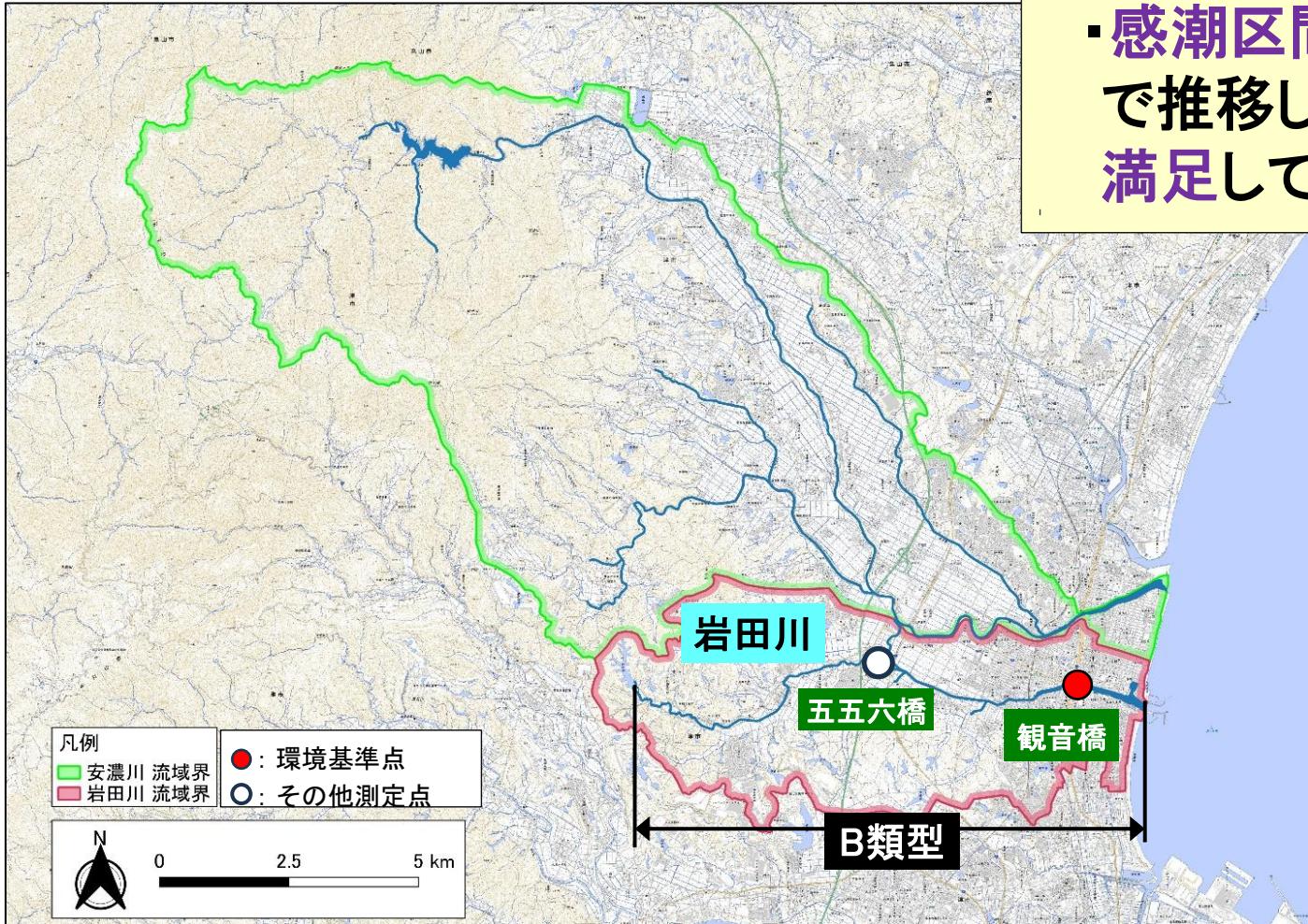


□水質調査の実施状況

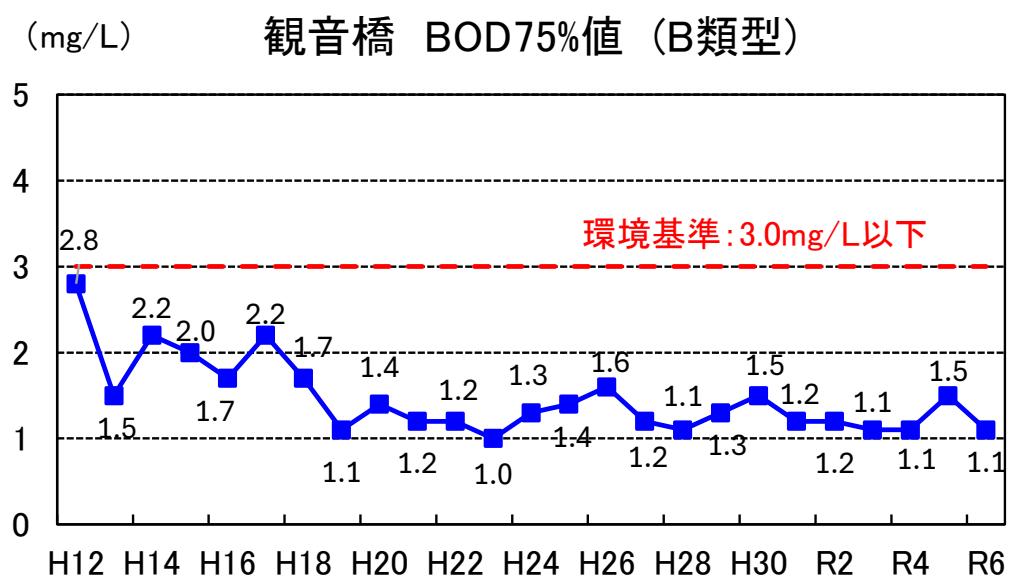
- ・岩田川では、観音橋と五五六橋の2地点において定期的な水質調査が行われている。

□環境基準の達成状況

- ・岩田川は全区間が環境基準B類型に指定。
- ・BOD75%値について感潮区間下流の観音橋では近年は1～1.5mg/Lで推移して環境基準(3mg/L)を満足しており、H15頃に比べて改善傾向にある。
- ・感潮区間上流の五五六橋では近年は2～3mg/Lで推移し環境基準を超過する年度もあるが、概ね満足している。



岩田川の類型指定および水質基準点位置図



【安濃川】

項目	内容
現状	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 河口付近には河口砂州や干潟が広く分布し、シギ・チドリ類やカモ類などの渡り鳥の渡来地となっている。 ➤ 下流域は河畔に竹林、水際にはヨシ・ツルヨシなどの植生がみられ、水域では回遊魚・汽水魚・淡水魚など多様な魚種が生息する。 ➤ 中流域は竹林、スギ・ヒノキ植林やムクノキ等の落葉広葉樹からなる河畔林が連続し、水域ではアカザなどの重要種もみられる。 ➤ 上流域は瀬淵が連続する溪流環境となり、カワガラスやサワガニ等の溪流性の生物がみられる。 ➤ 水質は、中流域では良好に推移、下流域は変動が大きく環境基準を超過する年もある。 ➤ 既定計画策定時（H15）に比べ、特定外来生物の増加などがみられるが、河川環境の著しい変化はみられない。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 生物に配慮し、河畔林及び瀬淵や州などの多様性の保全・創出 ➤ 水質の改善

【岩田川】

項目	内容
現状	<ul style="list-style-type: none">➤ 感潮域はコンクリート護岸で水深が深く、砂州や水際植生は岸際にわずかにみられる程度となる。➤ 中流域～上流域はやや単調な環境となっているが、水際にツルヨシ、法面にチガヤ等の植生があり、バッタ類やトンボ類が生息する。➤ 水質は、感潮区間下流では経年的に環境基準を満足し、感潮区間上流では基準を上回る年もあるが概ね満足するレベルで推移する。➤ 岩田川では既定計画策定時（H15）に比べ、下流区間で水質改善傾向がみられた。その他、河川環境の著しい変化はみられない。➤ 支川の三泗川では、中流付近の堰により湿地が形成されている。➤ 三泗川周辺では既定計画策定時（H15）以降に圃場整備が実施され、周囲の水田環境が変化した。湛水域（湿地）は維持されている。
課題	<ul style="list-style-type: none">➤ 治水・利水面との調和を図りつつ、自然環境を保全・創出➤ 水質の改善



目次

1. 流域の概要
2. 現在の計画
3. 気候変動への対応方針
4. 河川の現況
5. 治水の現状と課題
6. 利水の現状と課題
7. 環境の現状と課題
- 8. 今後の進め方**

第1回 流域委員会（令和8年2月5日）

- ✓流域の概要、現地視察
- ✓治水、利水、環境の現状と課題

今回

第1回 アンケート（令和8年春頃）

- ✓関係住民の意見聴取
（流域の課題、河川改修の要望等）

第2回 流域委員会（令和8年夏頃）

- ✓河川整備計画（原案）（案）の提示

第2回 アンケート（令和8年秋頃）

- ✓関係住民の意見聴取
（河川整備計画【原案】（案））

第3回 流域委員会（令和8年冬頃）

- ✓河川整備計画（原案）の提示

関係機関協議・パブコメ・関係市町長意見聴取

河川整備計画策定